

第2回出雲採択地区教科用図書採択協議会会議録（要旨）

【日 時】 令和2年7月15日（水）9：00～16：00
【場 所】 出雲市役所 4階 職員共済会会議室
【出席者】 委 員：各市町教育委員会代表3名、保護者等代表4名
代表研究調査員：12名
事 務 局：出雲市教育委員会学校教育課 課長・主査・課長補佐

課 長：定刻より若干早いですが、ただいまから第2回、出雲採択地区教科用図書採択協議会を開催いたします。しばらくの間司会をいたします、出雲市教育委員会学校教育課長の金築と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の日程について説明したいと思います。この後、国語から順番に15教科種目の教科書の調査研究結果について、各教科代表研究員から説明を受けます。

8教科種目の説明の後、昼の休憩をとりまして、12時半から、午前中の8教科種目の選定の協議を行います。選定協議のあと、13時から、音楽をはじめとする7教科種目の教科書について、調査結果の報告を受けまして、最後に、午後、報告を受けた7教科の教科種目の選定協議を行います。順調にいけば、終了は一応16時ごろとしております。

丸1日かかる会議となりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

本日、お配りしております資料について確認いたします。事前にお配りしております、A3二つ折の、第1回の採択協議会の時の会議録、ございますでしょうか。それと、こちらも事前にお送りしておりますけれども、選定に必要な資料、これも冊子にしておりますけれども、本日お持ちでない方がいらっしゃいますか。予備を準備はしておりますが、よろしいですか。

それでは早速会議に入りたいと思います。初めに、杉谷会長がご挨拶を申し上げます。

会長あいさつ

会 長：おはようございます。先般来、豪雨によりまして、特に県中部や西部におきまして甚大な被害が発生しております。今日お集まりのそれぞれの市町におかれましても、被害を受けられた地域があったりということもあるかもしれません。そうしたご心配のある中で今日、お出かけいただきました。あわせて、昨日報道発表もされておりますけれども、本市内在住の女性が、新型コロナウイルス感染が確認されまして、現在市におきましても、対策本部会議を行っております。それぞれの市町におきましても、関係の対策会議等が開かれているようにも思っております。いろいろご心配のある中で、今日お出かけいただいたことは大変ありがたいと思っております。

先ほど、金築課長も申しましたように、本日は、それぞれの教科種目調査の研究をしていただいた結果を報告いただいて、それを審議し、最終的に採択協議を行うという日になっておりまして、ご覧の日程のとおり、大変タイトな設定をさせていただいております。4時過ぎまでかかる長丁場でもございます。ただ、来年度から、ここ出雲教育事務所管内の生徒が使う教科書をより良いものを、選定をしていくということでございますので、慎重審議の方よろしくお願いいたします。

日程については一部変更させていただきますが、ご理解をいただいでご協力を賜りたいと思っております。それでは本日どうぞよろしくお願いいたします。

協 議

課 長：ありがとうございました。

それでは、前回ご質問をいただいでおりました、他県の教科書採択問題について調べたことがありますので、その点についてまずご報告させていただきます。

事務局：皆さんおはようございます。学校教育課課長補佐をしております岩崎です。よろしくお願いいいたします。第1回の採択協議会におきまして、他県での教科書採択についての問題を調査いただきたいということでございました。それについてご報告をさせていただきたいと思っております。

本日記りしております資料の中に、沖縄県八重山採択地区における教科書採択問題という、A3の資料を用意しております、こちらをご覧くださいと思います。

まず、八重山採択地区でございます。これは沖縄県石垣市、それから八重山郡の竹富町、与那国町の1市2町で構成をされております。当時、平成23年ですけれども、こちらの採択協議会におきまして、中学校公民教科書で、A社の教科書を採択するとの答申がなされました。

それを受けまして各市町の教育委員会の方で採択ということになりますけれども、このうち、竹富町教育委員会は、このA社と異なるB社の教科書を採択するという決定をされました。

それにつきまして、右の方に関係する法律の条文を抜き出したものを書いておりますけれども、まず一番上の方、教科書の無償措置に関する法律でございます。改正前、改正後とございます。平成採択地区は都道府県教育委員会が指定をいたしますけれども、23年当時は、「市もしくは郡の区域、またはこれらの区域を合わせた区域」と規定になっております。

これをもとに1市2町という構成になっているわけでございますけれども、その中で異なる採択が行われたということでございます。これにつきましては竹富町が、一番下の方に載せております地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第21条第6項の方に、教育委員会の職務権限の中に、教科書その他教材の取り扱いに関することとあることで、これに基づいて、教科書を決定をする権限は教育委員会にあるということで、異なる決定をされたというところでございます。

ただ、無償措置に関する法律の中で、採択地区の中では同一の教科書を使わなければならない、採択しなければならないということがございますので、異なる採択をしたことによって、竹富町については、教科書無償を措置の対象外となりました。

そうした状態が続いておったわけでございますけれども、平成26年に、無償措置に関する法律の改正が行われまして、採択地区の区域については、市町村の区域というように、改正がなされました。これを受けまして、沖縄県教育委員会、当時1市2町で構成されていた八重山採択地区から竹富町独自の採択地区、竹富採択地区を設定されました。これによりまして、竹富町が独自で教科書採択ができるようになったということで、採択地区の中で異なる教科用図書を採択をするという問題は解決がされました。ですが、今の二つの法律の関係で、採択地区内で同じ教科書を使うということと、教育委員会の方で教科書を採択をする権限があるというところの問題が、根本的に解決されてはいないというところでございます。一応こういった形で、当時の八重山採択地区における教科書採択については、一定の整理がされたというところでございましたので、これについてご報告させていただきます。

課長：ただいま事務局が報告しました件について、ご質問等がありますでしょうか。

委員：私の方から、調査をお願いをしております、丁寧に調査をしていただきました。こういう事象は多分ないとは思いますが、もしあった場合に、我々としての心構え、こういう例があって、解釈としてはこうなっておりますということで、根本的な解決されておられませんというところのはっきりしたものをもって、教育委員会へも臨みたいと思っております。大変ありがとうございました。

課長：他はよろしいでしょうか。それでは早速協議に入りたいと思っております。

以後の進行につきましては、本会規約第10条第2項によりまして、杉谷会長、よろしくお願いいいたします。

会長：それでは、私の方で進めさせていただきます。まず今日次第を見ていただきますと、協議の1点目でございますが、前回の採択協議会の会議録についてです。これについてご意見がございますでしょうか。

ないようでございますれば、承認いただくということでよろしゅうございますか。

委員：はい。

会長：ありがとうございました。では会議録については承認といたします。

調査研究結果の報告

会長：続いて、2番、令和3年度使用中学校教科用図書の調査研究の報告並びに、図書の選定という事項に移って参ります。先ほど事務局の方から説明ございましたように、教科ごとに、代表研究調査員の方から報告を受けて、質疑を行いたいと思います。午前中、報告を受けまして、休憩の後に午後、選定8教科種目の教科の選定協議を行いたいと考えております。午後も報告の後、選定協議というスケジュールで行って参りますので、ご了解ください。

それでは、最初の報告に移ります。国語から研究報告をしていただきます。国語につきましては、国語と書写の2種目でございます。それぞれ、時間が限られておりますので、報告につきましては、要点を明確にして報告の方をお願いいたします。それでは、よろしく申し上げます。

国語

調査員：そうしましたら、まず国語の方です。4つの会社について報告をさせていただきます。まず、A社につきましてですけれども、教科書最初のところで、3年間を見通したところの学習事項、教材、そして、言葉の力の関係が一連で示されて、3年間の見通しの中で学習ができるようになっております。子どもたちの興味関心を高める工夫としまして、学びの扉という漫画形式のものが入っております。それをもとに日常生活の中から課題を見つけたり、次の学習への意欲を高めていくというような工夫がされております。また、古典の方では、浦島太郎を時代別にどのように話が変遷しているのかとか、或いは、伊曾保物語とイソップ物語と比較する中で、古典が今に生きている、或いは親しみを感じるような、工夫がされているところです。また、4番目にあります教科の特性との絡みですけれども、島根県それから日本全国の課題であります。文章と図表を関連づけているのは、そのことによって論理的思考を育成するというようなところに配慮した教材の選定或いは、学習課題が設定されております。また、3年間で361冊に及ぶ多彩な読書案内、それからそれに伴う読書活動が示されているところ、新たに加わりました情報の取り扱い方というところでの情報活用能力、思考ツールの活用等が図られております。また、他教科との関連を図る様々なリンク、そして、語彙を高める、語彙力を高める、語感を磨くというところが、非常に細かくされておりますし、全体を通して、学習の流れが各教材で明確にされておまして、その中で話し合う活動等が適切に設定され、これから求められる主体的、対話的で深い学びができるような工夫がされて、特に優れた教科書であるとしております。また、漫画、写真、絵、図表と、様々な情報が掲載されておまして、子どもたちの情操、そして学習意欲を高めることができるような工夫が随所に施されている優れた教科書でございます。学年の縦の繋がり、それから教科の横の繋がり、様々な方向性で、内容が細かくリンクが図られておまして、子どもたちが自学自習を楽しみながらできる工夫の多い教科書でございます。

続きまして、F社の教科書でございます。ここでは、まず思考の方法というのがまとめられているのが特色かと思えます。また、学習の流れが明確に示されておりますけれども、最後に、学びを広げるといことで発展的な内容が、明示されてるところが特色だと考えております。また、読む領域の中では、読み方を学ぼうということ、3年間で22の読み方スキルを身につけることで、他に応用できるような工夫がされております。興味関心を高めるという意味では、話題になっております又吉直樹さんの読書体験談が示されるなど、子どもたちにとっても、身近なものとして読書が楽しめるよう工夫されております。地域との絡みですけれども、1年生の資料のところにも古事記、大国主命と因幡の白兔が載っております。また、能、狂言等も、写真等で示されておまして、島根の神楽文化にも通じるというふうを考えております。その他のところでございますけれども、学習用語辞典ということで、これがただの項目だけではなく、国語の学習をするにあたって大切な言葉が、解説を含めて丁寧に載っておまして、中学校、高校を通じた国語学習に生かせるような形になっております。総括としまして、ここも、学びの道しるべ、という学習の手引きが丁寧に示さ

れております。その中で、先ほど言いました、様々なスキルと学習の過程を踏まえながら、いろいろな学習に応用できるように工夫がなされています。

G社の教科書です。大きな特色は、構成が持続可能な開発目標SDGsと関連付けて、単元が構成されているところがございます。これを踏まえて様々な教材、またそれを基にした課題解決的な学習ができるような工夫がなされております。2番目のところに書いておりますけれども、そのような学習を経ながら、最後に、各学年に学びのチャレンジとして、応用活用問題が設けられております。これは、全国の学力調査に準じるような形で、思考力、考える表現力を高めることができるような問題になっているところです。島根県との関わりですけれども、4番目のところで、最後の一句、森鷗外でございますけれども、森鷗外の作画紹介が非常に丁寧にされておまして、郷土の作家への理解、そして興味関心を喚起するものと考えております。5番目のところでございます。先ほど申しましたように、持続可能な未来をつくるためにというSDGsの絡みの特設単元が設けられております。そして、巻末折り込みに、理解に役に立つ言葉、表現に役立つ言葉ということで、例えば、まとめる、或いは一つ目は、二つ目は、というようなことで、このような言葉を使いながら、思考を組み立てたり、表現を分かり易くしたいというふうな手がかりが施されているところです。総括としまして、各教材に「学びナビ」というところ、それから思考の方法、学習のポイント等が丁寧に示されておまして、課題解決の過程が、身につくように工夫されているところがございます。ただ、所々で、小学校で学んだことはこうですっていうような記述がございまして、小学校で学んだことの確認、そして、高等学校への学習にも繋がるような、知識、理解の部分が施されているといった教科書でございます。

最後にI社の教科書です。I社の教科書では、2番に書かしていただいておりますが、巻末に学習を振り返ろうといったところで、1年間の学びを領域別に、演習問題として、振り替えるところが付いているところがございます。また、興味関心を高めるところでは、年2回の読書単元を設けまして、話題になりました「君たちはどう生きるか」、を取り上げたり、また、星の王子様については、各種翻訳を翻訳の違いを読み比べたりしながら、興味関心を持って読みを広げていくというような工夫がなされております。また、各単元ごと、ポイントポイントに学習の窓という、学習を通して身につけるべき力のポイントが図を用いて示されております。また、これは巻末の一覧にもなっております。また、5番目のところでございますが、各教科への関連ということで、この会社におきましても思考の地図、ということで、思考ツールがまとめられております。これによって国語科への理解、いろんな場所で、思考、考え方ということで活用できるということになっております。総括としまして、終わりのところに「学習」として手引きが設定されておまして、学習の過程が明確になり、その中で身につけるべき力が何点か明示されているところです。様々な教材ございますけれども、文章力のある教材があり、学習のための語彙力の向上、語彙の充実に向けても配慮されている教育図書であります。

簡単でございますが、以上でございます。

会長：ありがとうございました。それでは、皆様からご質問、ご意見等ございましたら、お願いをいたします。

委員：雲南の委員でございます。学習の流れを示しているということで、A社の教科書は目標・問いかけ、言葉の力、振り返りという流れをですね、子供たちは見通しをもってその単元を学べるようにするという意味だと思いますけれども、F社の教科書も学びの道しるべということで、流れ的なものをここでは具体的に示している、A社の教科書でいう目標、問いかけとか、最後の振り返りとか、そういうことがF社でいうと、どういうふうな表現が使っているんですか。

調査員：目標、内容を整理する、読みを深める、自分の考えを深める、学びを振り返る。そしてここは、学びを広げるというのが入っているのが特徴です。振り返りと言うようなことで書いてある訳ですね。その振り返りというのは情緒的なものではなくて、やっぱりまとめたものをそこで狙っているわけですね。目標とまとめとの整合性とかですね。

委員：ありがとうございました。

会長：他にいかがでしょうか。

委員：調査委員会は、A社の方が一番優れている。次が、I社というご意見ですか。

調査員：はい。

委員：全部を見ていないのですが、2年生を見ました。2年生の柱というのがあって、同じ教材、その取り扱いがI社の、その作品の魅力とか、文学的などころの国語の面白さとかですね、そういうのは必要じゃないかなという気がします。自分自身が読んで、I社は面白いなど。A社は、教師にとって教え易い教科書だということをちょっと思いました。あと、2年生の漢詩も春暁と、同じような題材、その説明も、Aは淡々と書いてあるけど、I社は、なるほどなあと思いました。I社の方は、字がやや小さく、活字はA社の方がユニバーサルデザインで大きいので、その辺は読み易いというのはありました。そういう分割の教え方はA社の方がすごく教師の方には良いかと。基本的にはI社の方が面白いなど思ったんですが、調査員のご意見をちょっとお伺いしたい。

調査員：調査員の方も、A社、I社でそういうお話をさせていただきました。I社の方も、どちらかというところ、調査員の中では、教職員が様々に、工夫がしやすい教科書かなと、A社の方が、子どもたちが中心、子どもたちが自主的に楽しく学べる手立てが、様々に施されている。出雲地域は、日本語指導が必要な子どもたち、或いは学力差のある子どもたち、様々な子どもたちがおりますので、視覚的な手立て、そして、学習のポイント等の文字による手立て、様々な分野とのリンクといった点で、A社の方が優れているという結論をつけています。

委員：確かに分かり易いのはA社という感じがするんですけど、その次のところを伸ばしていけないといけないというのがある。、一長一短、色々あるわけですが、そういう理由で、A社を選ばれた訳ですね。

調査員：A社の方は、先ほども言いましたようにその文書と図表を用いた、いわゆる教材の充実ですとか、或いは情報活用能力、情報の扱い方が、ここでは新設をされておりますので、それに向けての配慮といえますか教材の多様性もあるということで、国語としての、次の学習指導要領に合わせた形で作られていると結論付けています。

委員：ありがとうございます。

会長：他はよろしいでしょうか。私、全ての調査員に聞きたいんですけど、今回は国語ですが、どこの教科書会社も、多くがQRコード、2次元コードを使って、コンテンツをパソコン等で見られるようにしてあります。そのあたりの活用性というか、有効性みたいな点についてはこの4社はどうなんでしょう。

調査員：いずれもインターネットよりもですので、子どもたちのインターネット環境が充実してないと、家庭での自主学習というところでは格差があるかなというふうに思っておりますが、総じて、各社とも工夫が凝らされている、といったところですよ。A社等については、他教科との関りというか、様々な朗読とか映像とか、ゲーム、文法ゲームとか練習問題とか、コンテンツのバリエーションはA社があるなど判断しています。

会長：はい。ありがとうございました。他はよろしいでしょうか。保護者代表の委員さん方はよろしいでしょうか。それでは国語の方については、以上で報告並びに質疑、終了させていただいて、続いて、書写の方、お願いいたします。

書 写

調査員：そうでしたら書写でございます。

A社でございます。A社の場合、特徴的なのは1番の書写活用ブックという、資料編的なものがありますけれども、ここは実用的な知識や書式が網羅されております。バリエーションがある方でございます。それから、2番目の、学習の過程の中で、毛筆で学習したことを硬筆で定着を図るということになっておりますが、この定着に関わる手だてが、練習問題があったり書写テストがあったりといったところで他社よりもバリエーションが多くございました。興味関心を高めるという意味で、様々な文字文化の事柄が、様々なことから取り上げられているといったところ。また、4番目のところで書写の体験学習が日常生活に生きるような、そして教科横断的な学習が組めるような、教材が仕組まれているということでございます。また、6番その他のところに書かせていただいておりますけれども、裏表紙に保護者さんへのメッセージが載っております。これは書写学習のねらい、どのような思いで、この教科書を編成したということが、保護者さんに向けて丁寧に説明がございます。総括として、書写の学習の中で、課題解決の学習過程になるように構成されていること、日常生活に結びつけた教材、そして、考えたり、対話したいという活動を入れながら、書写の力をつけていくことができる特に優れた教科書であろうというように結論づけています。また、最初に申しました書写活用ブックは、様々なバリエーションがある関係で、一生を通して活用できるそんな教科書になっているというように考えています。

F社の教科書でございます。Fの教科書は、まず1番のところで、各単元で書き方を学ぶことで、学習のポイントが示されており、またそれが巻末の一覧表にまとめられております。また、2番のところで、硬筆の分野で練習用のマス目、或いはなぞり書きができるなど、硬筆ノートとしても、直接書き込みをする形で活用ができるようになっております。3番目の興味関心のところで、1年生の時に書いた文字を、3年生のところでもう1回文字を書いて、成長が比較できるというようなことになっておまして、学習の成果が自己の成長に結びつくような配慮がなされております。4番、環境特性として、毛筆の補充教材が充実しているのが、この会社の一つの特徴でございました。最後、総括としまして、豊富な書き込み欄、それから学習の振り返り欄が設けてあるということ、そして毛筆の学習が硬筆の学習に生かせるというようなことが、この教科書でございました。

G社の教科書です。G社の教科書も、様々に書き込み欄がございます。G社の教科書については、2番の学習の流れでございませけれども、試し書きから課題を発見をして、課題解決を行っていくというところが、この会社の学習の流れの特徴でございました。また、書写の学習の意義などを巻頭に載せていくということで、何のためにこの学習するのかということが示してあります。また、3番のところで、あの人が残した文字ということで、一休ですとか、福沢諭吉ですとか、そういった有名な人の書を紹介したり、建築など様々な角度から文字文化を紹介したり、興味関心を高めているといったところがございます。それから、その他のところでもございますけれども、1年生の最初に、ノートの書き方を挙げておりますけれども、この学習が日常の学校生活にも生きていくんだということを、学習の意義を理解させるという手だてが入っているところです。総括としまして、書写の学習の意義、そして楽しさを感じられるような工夫、多様な教材、写真資料等が掲載されている教科書であると、そして、他教科や社会生活に活用できるような様々な教材構成、資料等がある優れた教科書であるというところでございます。

I社の教科書です。教科書がB5判の教科書です。硬筆演習帳ということで、28ページ分のブックが閉じ込み式で添付されているのが、他社とは異なります。また紙面全体がゆったりと構成されて、紙面の中に入る文字の量、情報の量がすっきりとしているというのが、他社と大きく違うところです。興味関心といったところでは、有名なスポーツ選手として、卓球の伊藤美誠選手、作家として宇宙兄弟等の作者、こうした情報により、子どもたちが生活に結びついたり、興味を高めながら、学習できるような工夫がございます。また、5番のところですけども、はがきとか、手紙、それから学級目標、職場訪問の壁新聞等と、生活の中での学校生活の中での体験と密接に関係づけながら学べるように教材が構成されております。総括として、教材の最初のところで、例えば気づいたことを発表しようとか、その違いを考えようとか、そういった考えたり話し合ったりする活動が設定されていること、学習の窓として、その教材のポイントが明確に示されていること、そして、何のための楷書か、何のための行書なのかという、何のためにが明示されているといったところで、

学習の目的が、このところでしっかりと示されている教科書であると結論付けています。
以上でございます。

会 長：ありがとうございました。では書写の4社の調査について、ご質問、ご意見いただきます。

委 員：私、国語を教えたことはないけども、教科書が国語と書写、一緒と違うとでは、やり易さとか、やりにくさとかはいかがですか。

調査員：やり易さはございます。ただ、できないということはございません。どの教科書会社も、自社の国語の教科書とのリンクが貼られております。

委 員：もう一点、G社が優れた教科書、I社は良い教科書、どっちがいいんですか。

調査員：これは調査員としては、G社の教科書の方がよいです。

委 員：G社が良い。

調査員：ですので、A社が最も良く、G社があつて、その次がI社ということです。

委 員：書写、私は思うんですけども、やっぱり生活に生かすということも一つすごく大事だと思っております。A社については、生活に生かすということで優れているということで挙げてあります。例えばそれが他の分野でも生活に生かすという事が、このところがすごく長けているというか、いいところがあれば教えてください。

調査員：はい。どの教科書会社もやはり生活に生かすということが、意識されておりました、A社以外でということでございますか。

委 員：A社が生かされているということだと思ふけれども、その他のところで、実際の生活に結び付けた教材というところで特に優れた教科書という形で書写が書いてありまして、そのところが他社に比べて長けているというところがもしもあれば教えて欲しいと。

調査員：やはり職場体験、職場訪問のこと、或いは防火訓練をしましょうとか、そういった実際の自分たちが日常生活を体験するようなことと結び付けているということ、それから、ここもやっぱり情報に関わるようなことの内容があつたというところでございます。本のここを書こうとか読書活動等にも関わらせたようなものが、これも、やはりここは多様なバリエーションがあつたなというところ
です。

会 長：よろしいですか。

委 員：はい。

会 長：他にございますでしょうか。

委 員：国語の教科書と書写の教科書、リンクされているということをおしやりましたが、国語と書写の教科書をこれまで別々のものを使われたことはあるのでしょうか。大体同じものではないか。

調査員：大体同じだったと記憶しております。違う時代があつたかもしれません。

委 員：そうですか。

会 長：今使っているのは同じものですか。

調査員：はい、同じものです。

会 長：感想ですけど、さっきも質問しましたが、これから1人1台タブレット時代になって、毛筆の動画を、子どもが手元で見られるっていう、コンテンツっていうのは、いいなと思って見させてもらいました。そういう意味で、数社はそういうものを用意しておられるっていうことなんで、優劣をそういう点ではつけがたいのかなと思ってんですけど。

調査員：そうですね、どの会社もコンテンツを用意しておりますが、若干、デジタル教科書、学習者用デジタル教科書的な、印象的なお話をして申し訳ないですが、バリエーションがA社だと思いました。

会 長：非常に丁寧だと思いました。私も入れたものをほとんど見たんです。他はよろしいでしょうか。

各委員：はい。

会 長：それでは、国語の2種目につきましての調査報告ありがとうございました。
それでは社会科の地理並びに地図の調査資料に基づいて説明をお願いいたします。時間は20分とっております。最初、15分までのところで地理の説明をしてください。

地 理

調査員：ちょっと時間が押すかもしれませんが、お願いします。

説明の前にお断りですが、お手元の資料に基づいて説明しようと準備しておりましたが、やはり観点が6つありますけれども、前後かなりページも混在します関係で、時間がかかるかなということもありまして、教科書ごとに設けられている題材がバラバラになっているので、比較することが難しい場合も考えまして、できるだけ同じ題材の内容のところで説明させていただけたらと思います。資料には最近のマップ、新しいということもありますけれども、二次元コードのQRコード等について触れてありますが、今回はすべての教科書にそれが設定されておりまして、どの教科書もネットワークにつないで学習できるようになっております。あわせて、小学校の内容、他分野との繋がりも、全教科書に示されておりまして、これは後から資料で報告、ご参照いただけたらと思います。説明の流れですが、A社、G社、J社、O社の順で行います。最初に4のところの竹島関連だと、県内を取り上げた資料に触れさせていただいて、続いて大単元の流れを、北アメリカ州の学習の部分で、説明させていただいて、それから1時間の流れを、アメリカの工業のところ、比較させていただき、最後、単元のまとめを比較して、総括させていただきたいと思います。

ではまずA社の教科書です。竹島の対応につきましてですが、ページの方は、26ページ。

会 長：時間がないので、要点を絞ってお願いします。

調査員：はい。竹島は写真と地図で、尖閣諸島とともに記載をされてます。ページは開かなくてもよろしいですが、県内ではアマチュアの遠隔操作、松江市のRuby等の内容が取り上げられております。続きましてアメリカの導入のところですが、101ページを見ていただくとアメリカの導入と見開きのとても大きな地図があるのが特色ですが、あと写真等が掲載され興味、関心を引かせるといった導入になっております。それから配列、ずっと流していきますけれども、1時間目の右開きですが、自然環境のところと合わせて1時間の中で、多様な文化、歴史、背景、移動する距離等、近隣の諸国との関係がそこに、1時間の中に詰まっております。他社の中には、自然環境だけで1時間というものもあります。そのあとが食、農業、工業、そして108ページが現在の生活文化ということで、そのあと、資料活用したいということで、特設のページ、最後まとめのページが112ページにありまして、ここでは、最初の振り返りは、まとめの視点ということで、基本的なところが

押さえられて、あと、学習のまとめのところですが、探求のステップというのが112ページにあります。そのステップの項目ごとに、話し合い活動ができるような形で、対話的な学習、深める学習ができて自分でも表現をしていくページが、113ページに出ています。プラスαで探求課題もそちらに載せたというのが特色です。これに対応的な学習も含めた、判断力、表現力を身につける配慮がなされている、優れた教科書であるということが言えると思います。

次、G社、地域のところですが、25ページに竹島について書かれています。竹島の現状が、本文の中で尖閣諸島とともに触れられ写真も取り上げられております。県内では石見神楽とか石見空港の現状が取り上げられています。アメリカの導入のところですが、93ページがアメリカの導入になっております。自然環境等の写真等が掲載されて、93ページ下のところに地球的課題も探求できるということで、こういう探求課題も書いてあるのが特色です。次、自然環境が見開きで、1時間で取り扱うようになっております。続いてそのあと、農業、そのあと工業、そのあと、文化、文化と生活、それから最後103ページのところで、現状の課題、問題解決というところの流れになっております。まとめのページが最後になりますけれども、105ページを見ていただきますと、基本的なワークチェックとか、基本的な語句の整理、そういったものができるようになっております。現代的課題は、104ページ手前のところが軍事力ということで、現代的課題を追求するということが設定されているというのが、特色です。

それでは続いて、J社に移らせていただきます。竹島についてですが、20ページ、21ページを見ていただけたらと思います。竹島、20ページの下のところから、竹島単独で項目がついております。4つの教科書の中で本文には一番詳しく掲載されております。写真と、あと竹島と韓国、それから隠岐、本土からの距離が示され、隠岐の島の漁の様子もコラム的に出ているのが特徴です。続きましてアメリカの導入、94ページのところを見ていただきますと、アメリカを象徴するような写真がカラーでふんだんに掲載されておまして、地図で場所を確認できるようになっております。配列ですが、次のページ、アメリカ、北アメリカ州の気候を1時間で取り上げて、次のページで、次の時間に、文化を移民の歴史的背景等を学んだ上で、産業へ移る、農業、工業そして、現在のアメリカの生活様式が課題というところになっておまして、まとめのページがあります。工業のところですが、102ページを見ていただくと、最近のスマートフォン、タブレットの話題を導入として、キャラクターが考えるポイントを指摘しています。それで、学習課題がそこに明記されています。どの教科書にもありますが、それと振り返りのところが、103ページで「確認しよう、説明しよう」というところで、振り返りの説明資料、これは表現力を重視したということで、特に変わっているのが、キーワードとなる3ベルトを使ってとか、そういったキーワードを示して、視点を分かり易く、学習課題と繋がるようなものになっております。あとは資料活用等の仕方、ポイントが明記されております。それでまとめのページ106ページ、107ページを見ていただくと、他社と比べて、まとめが非常にしやすくなっております。それから見方、考え方のページが107ページの方は、ステップ1からステップ3までありまして、子どもたちの状況に応じて、ステップ3というところまでで、実態に応じて、できるような形になっております。自分でもまとめていく、整理していく力をつけたり、或いは表現力をつけていく上では、思考力、判断力も含めて、そういったものをつけていく上で非常に配慮されたものです。それで、単元を通した、大きな単元を通した課題もきちんと示されておまして、このまとめの一番上のところにも、106ページの一番上のところに、もう一度第4節の問いというものを振り返って、その問いにも応じたまとめをするということができるようになっておまして、問いとまとめの一貫性を感じることができる、特に優れた教科書であると考えています。

続いてO社の教科書について説明させていただきます。19ページのところでは竹島について、竹島の現状については、18ページのところの本文に現状が書かれており、写真が掲載されております。県内の題材では海士町の島留学の話題が取り上げられています。アメリカについての導入のところ、83ページですが、写真が掲載されております。クイズ等も含まれてというふうに工夫されております。配列ですが、最初の時間に、自然とそれから民族を1時間の中で取り上げるようになってます。そのあとは農業を、工業、それからアメリカの文化と企業、という取り上げ方、そして裁判の抱えている課題等が93ページというところでありまして、工業の方の1時間の内容については、88ページに課題学習が明記されております。課題学習の下に並列して、見方考え方というのがついております。どういうふうに扱うかというのは、教師の手腕にかかっているのではないかな

と思っております。深めよう確認というのは89ページのところがありますが、これが振り返りの内容になっています。特色としては資料の活用というのが、89ページの上と88ページの下のところ、資料をどのように活用していくかといったものが明記されております。それから後、まとめのところを見ていただくと94、95ページのところがまとめのところになっておりますが、一つは大きな持続可能な社会が現代的な課題追求ということで、学習した上で、討論できるような、対話で深めていくというものが取り上げられております。それから基礎基本をしっかり押さえるという振り返りが95ページであり、学んだ順に配列された、良い教科書であるということでございます。以上が4つの教科書でございます。

会 長：地理の4つの教科書について説明がありましたが、ご質問、ご意見はいかがでしょうか。

委 員：島根県の竹島について、この4社のうちで、竹島の歴史、地理ではあるんですけども、正確でこれはいいなと思われた教科書はどれですか。

調査員：やはり一番詳しく、そして、日本の国際社会での話し合いを呼び掛けているような表記、詳しく現状やこれまでの経緯がざっと分かるように示されているのが、J社の教科書ということで、写真と、隠岐の実際の人々の様子、それから竹島の位置が分かるようになっているということで、この教科書ではかなり、内容が整備されています。

委 員：J社とG社では韓国はそれについて抗議しているがそれには応じていませんと、こういう表現がしてあって、あとの2社は抗議していますとだけで、そこは私もJ社がいいと思うのは、そこについてはきちっと、それについては応じてないという観点の表現の仕方がきちっと適切にしてあるので、J社はですね、やっぱりそういう点では優れているなど。同じような意見でよろしいですか。

調査員：はい。

委 員：さっき言われた学習課題と振り返り、そして、問いとまとめということの関連性は、J社は学習課題を踏まえた振り返りができるようになってると、それから、そういうことを踏まえたまとめができるようになって意図的にそういう風に仕組んであるということでしたけど、他の教科書にはそういう事は見られなかったということですね。

調査員：見られないわけではないんですけど、一応そういう課題と振り返りはできると思います。一番のつじつまといたしますか、分かり易いと言いますか、配列、その原子炉説明資料というのが、J社はあるんですけども、非常にその二つがきちっと明記されていると。それとあと、長い単元の中での、その繋がりとか、大単元の間と振り返りも、これも、きちっとできるようになっている。例えばA社につきましては、大きな単元の課題はない状態で、ただ、なければ、教員サイドとか、生徒の実態について、こういう、長い単元、大単元の学習が、かなり学校によって、差が出てくるんじゃないかと思えます。

委 員：ありがとうございました。

会 長：これでよろしいでしょうか。
続いて地図の方、23ページになりますが、もうちょっと簡潔にお願いしたい。

地 図

調査員：まず、2冊ですが、A社につきましては、パッと見、教科書とほぼ同じような、さわり心地も、ちょっと間違いそうな感じがしますが、色合いですが、パッと最初の見開きを開いてもらすと、華やかというかちょっと薄い感じの色合いになっております。大きさも教科書と同じで、31ペー

ジを開いてもらうと立体のものが付いております。本当にシンプルにつくられています。それから、縦の見開きのページが、62ページ、61ページであります。それから、特色としては96ページ95ページありますが、テーマ学習みたいな形で歴史の関係で字幕とか出てますけれども、写真、そういった学習、繋がりのある学習ができるようになっております。竹島のところは、最後のページの見開きで写真で取り上げられております。13、14ページですが、現代的課題が平和とか、紛争、難民それから環境問題いろいろありますがそういった課題も、まとめてあります。以上です。

続いて、J社ですが、一回り大きくなりました。触り心地も、これまで使っているのと同じという感じで、教科書とは、もう触っただけで、同じとなっております。特色としては、28、27ページ、中国の資料が同じ一縮尺で書いてありまして、そこに必ず地図を活用するためのポイントが書かれてあります。それから、見開きの方は、29、30ページを見ていただくと、韓国をさらに拡大した形で、大きく韓国が見えるような見開きの使い方で韓国がより詳しく見られるような形になっております。それから、立体地図ですが、ページは26ページ、25ページ、立体地図、中国を中心に書いてありますが、山の高低、平野、あと人々とか、いろいろな有名な遺跡等が盛り込んであって、より詳しく見られるようになっております。竹島については80、81ページ見開きのところにも、島根県のところにも出てますが、その見開きのページには、写真入りで、日本、韓国からの位置も分かるようになっております。それぞれ地図の見方もポイントは、しっかり書いてあって、非常に調べやすい、優れた地図帳になっていると思います。あとは主体的な学習は、現代的な学習、150ページ、149ページ、これは災害というテーマになりますが、地震関係のことが書いてあります。その次のページには、人口問題について、考えていくための資料、こういったものが、課題学習に使えるつくりになっております。以上です。

会 長：はい、ありがとうございました。では、地図の2社について、この判の大きさの違いということで、何か、メリット、ありますか。

調査員：カバンに入ることについては、あまり問題ないと思いますが、大きいことで詳しく地図が載っているというところ。それから、子どもたちが地図帳を忘れないかなということでは、歴史と3冊同じようになっていますが、区別がつきやすいということですね。

会 長：それと、現在使われてる、地理の教科書と地図は、発行者が違うんですが、違うことによって、何かこう、デメリットみたいなことがあるんでしょうか。

調査員：一緒のところは、そういう課題との繋がりができたりしますけれども、そこにこだわらなければ、同じ観点で作られてるということであるかと思います。

会 長：特段困るという部分は、ないということでしょうか。

調査員：困るというようなことはないように思います。

会 長：他、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは、ありがとうございました。では続いて、社会科歴史、教科書の調査についての報告をいただきます。時間が限られておりますので、要点を絞ってお願いいたします。

歴 史

調査員：はい。各教科書いろいろな工夫がされておまして、特集ページもいろいろされておまして、特色ある教科書が作られているんじゃないかと思っています。ただ木を見て森を見ずというか、木の部分が大事だと思っておりますので、その辺をしっかり見ながら検討した結果をお話したいと思っております。では、A社の教科書ですけれども、19ページのところご覧いただきたいんですが。

会 長：できれば、教科書を見ることなくしていただければと思います。

調査員：はい、では、A社の教科書については、単元を貫く問いというのがありまして、今、教科書会社の方では、各単元で貫く問いというのを、大事にしております。それで探究課題っていうのがありまして、単元を貫く探究課題にたどり着くまでの構成が非常に整えられている教科書だというふうに思っています。それから単元を貫くために、探求していく学習課題、チェックアンドトライとかです、いろいろな思考力、判断力、表現力の育成ができるようになっておりまして、その調査票に書いておりますが、協議では特にこれが一番優れている教科書だというふうに考えておるところです。それから、見開きのページにあるような、本文には豊富な資料、それから文字の行間のゆとりもあって、非常に、読みやすい内容になっております。

G社の教科書ですが、文字の行間にゆとりを持たせながら、見やすい構成になっております。見開きページになっておりまして、時代の流れや変化を考えながら、その1時間で復習ができるような構成になっております。A社の教科書と同じように、それぞれ思考、判断、表現力が育成されるような、コラムとか設けられております。それから、教科書に年表が付けられておりまして、時代を把握しながら、学習ができるというふうになっております。それから、各見開きの中で学習内容、例えば、グレードジャーニーとかエジプトはナイルの賜物とか、見た時に興味を持てるような構成になったりしておりまして、生徒にとっては、興味関心を持てる内容かというふうに思います。

それからJ社の教科書ですが、これもA社の教科書と同じように、学習の問いがありまして、各単元を貫く問いがありますので、それを見通しながら、学習できるような展開になっております。ということで、A社とほぼ同じような構成になっておりまして、A社とJ社と迷うところではありますが、A社の方が、J社と比べますと、記述的には、現状の中学生に一番あっているということや、課題の問い方などが、J社の教科書は抽象的な表現がありますので、A社の教科書の方が、生徒にとってより分かり易く、課題を解決できる教科書でないかというふうに思っております。

M社の教科書ですけれども、M社の教科書は非常に本文が詳細に記載されておりまして、そういう意味では、歴史的な事象を丁寧に説明がしてあり、いいところだと思います。それから、今までの教科書と同じように、見開きページになっておりまして、学習の課題が提示され、章末には学習が深められるような項目が設けられています。それから章末には、教科書に直接記入できるようになっておりまして、そういう点も工夫されていると思います。

それから、O社の教科書ですが、これも各編の導入のところで色んな資料が提示され、時代を比較するような学習課題が見つけれられるように工夫されておりまして、また、各編、章のめあても示されておりまして。それから、今までの教科書と同じように、学習課題が示されまして、その中にコラムとか設けられて、思考判断ができる教科書になっております。

R社の教科書も同じように、導入のところで、歴史の世界へようこそというふうな感じの資料が設けてありまして、その時代の特徴や、その他の時代との比較ができるように工夫されておりまして。今までの教科書の部分と同じように、学習課題が設けられ、それからまとめることができるような構成になっております。それから、選定資料にも設けておりますが、この教科書の特色としては、古代の宗教観とか、神話など、日本の政治に関わることが詳しく書かれておりますので、そういうところには特徴があるかというふうに思っています。

冒頭にも述べましたが総合的に判断したとき、A社かJ社かという判断だったわけですが、A社の教科書が、生徒の実態に即した、一番適切な教科書というふうに考えております。以上です。

会 長：はい、ありがとうございました。皆さんからご質問、ご意見をあればお願いします。

委 員：歴史でよく言われることで、近現代史がおろそかになっていて、古代は時間を使って教えるが、近現代は、時間を取ってしっかり教えていないことがある。竹島にしても、北方領土にしても、近現代において現在のような状況になっているわけですから、一つの教科書っていうんじゃなくて、文科省の姿勢として、近現代をしっかり教えなきゃいけないという仕組みにはなってるわけですか、前と比べれば。

調査員：はい。

委員：随分、量的に多いということですか。

調査員：量的にも多いですし、時数的なこともありますので、以前は、3年生は3時間という扱いでしたけど今は4時間扱いになっておりまして、かつては3年生になると公民的分野になっておりましたが、今は3年生のちょうど今ぐらいですね、今ぐらいまでがこの分野を学んでいくことになっておりますので、そういう面では時間も確保されて、我々が学んだ頃は、近現代は自分で学んでみたいということもあったんですけども、そういうことはなく、教科書がどの分野も同じように、今はきちっと扱われ指導しているというのが現状だというふうに思っております。

委員：ちょっと教科書を離れましたけど、私、疑問を持っていたもので。ありがとうございました。

会長：さっきの説明で、A社かJ社というところで、A社の方がより今の中学生の実態に合った問いがされてるんじゃないかということだったんですけど、具体的にどういうふうな、表現がしてあるのか。

調査員：A社の教科書は各章の大きな問いがあって、必ず最後に問いに返るというふうなところがA社の一番の特色でして、例えば、A社の教科書でいきますと、章末のまとめの学習があるんですけども、58ページ59ページのところです。例えば59ページのまとめ方、子どもたちが最後まで授業を振り返ってまとめるときに、その表現の仕方とか問いの仕方が、レベルが適切かなというところで、J社の教科書につきましては、同じようなところが、56、57ページですけども、ちょっと抽象的であってですね、どう答えていいのかわからないような部分が、このページに限らずどのところでもあって、最後まとめるときに、子どもたちが自分で考えるときに、J社の教科書の方がちょっと難しいというところで、A社の教科書の方がより子どもたちにとって考えやすいというところが、大きなポイントだったというふうに思っております。

会長：他、いかがでしょうか。保護者代表の皆さん良いでしょうか。それでは歴史について、ありがとうございました。

では、一旦ちょっとここで休憩を取らせていただきますので、調査員さんお待ちいただいて、また後でお願いをいたします。

～ 休 憩 ～

公 民

会長：それでは再開させていただきます。

引き続き、社会科、次は公民の方の報告をお願いします。

調査員：先ほど述べましたとおり、いろんな工夫がされております。歴史と公民と共通してるところは、竹島問題とか、領土問題については、その教科書についても詳細に触れられております。それから地域的な、島根県に関わるような、出雲大社であるとか、そういうところも、両方、取り上げているというところで補足しておきます。公民的分野も、先ほどの歴史的分野と同じようなところで、同じような傾向があると思っております。

A社の教科書です。選定に必要な資料のところの総括のところを見ていただきますと、先ほど言ったように各単元を貫く問いがありまして、最後の研究課題、探求課題のところまで解決策にたどり着くまでのところがきちんと示されている教科書だというふうに思っております。それからA社の1のところになりますが、図表や写真等の資料も多くて、とても見やすい内容になっております。それから歴史でも触れましたが、研究課題、探求課題にたどり着くまでのところで、A社の2のところに書いていますけども、2番目の○の一番上のところですけど、チェックアンドトライとか、そういうふうなコラムとかいうものがあって、表現力、判断力、思考力が育成されるようになってるとい

うふうに思っております。先ほどと同じようにA社の教科書が公民的分野も、特に優れているというふうに考えております。

それから、G社の教科書ですけども、選定資料に沿って話をしますと、G社の教科書の1のところですが、最初のところで教科書の使い方についてきちんと説明されておりまして、4ページのところですけども、子どもたちにとっては、そういう面では、ここを確認すると安心して学習に取り組むことができるということになっております。それからA社の教科書と同じように、図や写真も多く、分かり易い内容になっております。それから、総括のところを書いてありますが、内容のまとめのところでは、学習内容の確認や知識の定着や説明するための、振り返りが毎時間できるようにされております。それからその他のところに書いてありますけど、ノートの取り方についても、きちんと説明されているので、子どもにとっては、取り組みやすい教科書だというふうに考えております。

J社の教科書ですが、先ほどと同じように、A社と同じ傾向の教科書でございます。J社の2番目のところ、章の始めに章の問いを提示して、章のまとめで意見の整理や意見交換など、3段階の活動を通じて書いてありますけれども、最後、章の問いを考える構成になっております。歴史にかぶりますが、A社とJ社と総合的に判断したときには、A社の方がより子どもたちに具体的で分かり易いというところが、A社を選んだ理由として挙げております。

それから、O社の教科書ですが、これも2番にありますけれども見開きページになっておりまして、学習課題プラス見方考え方が示されていて、最後に確認ができるような構成になっております。それから、O社のところの教科書1のところですが、下の○、2番目の○ですけども、地理的分野と歴史的分との関連が示されていますので、総合的に考えるような構成にもなっております。それから6のその他のところ、2番目の○ですけども、多くの部分に重要語句だけではなくて沢山の語句にルビがふられておりまして、ユニバーサルデザインの配慮があり分かり易い教科書編成になっております。

それからQ社の教科書ですけども、これも2のところを見ていただきますと、見開きページになっておりまして、学習内容が示されて、見通しを持てるような構成になっております。それから、グラフ等が大きく、これに関しては、大きい方が分かり易いですので、より視覚的に理解が高められるような構成になっております。それから、先ほど領土とか、問題について話しましたが、Q社の教科書には、教科書の表紙のところに領土が示されておりまして、そういうことを意識した教科書になってるというふうに思います。教科書の裏表紙のところに、我が国の領域が示されております。

それから、R社の教科書ですけども、これもまた同じように見開きページになっておりまして、学習課題と学習内容等が示されて、見通しが持てるようになっております。それからこの教科書ではもっと知りたいというところで、日本の伝統文化や、歴史、古代のこと或いは天皇家に関わること、そういうことについて多く取り上げている挙げられているところが特色であるというふうに思っております。

繰り返しになりますが、A社かJ社かという判断というところで、先ほど説明しましたように総合的に見てA社の方が子どもにより分かり易い教科書という判断で選んでおります。以上です。

会 長：それでは、公民についての調査報告についてご質問をお願いいたします。いかがでしょうか。

委 員：人権について、どの教科書についても、基本的人権とは一番大事なところなので、押さえておこうかと。それで、部落差別についてA社、J社というところですね、それなりにきちっとしてあるかなと思っております。J社の方は、黒文字で分かり易い、全国水平社とか部落差別解消推進法だというのが濃く書いてある。A社の方は書いてないところがあるんですけど、あんまり書きすぎると多くていけないからということで、先ほど言われましたが、A社の方が適当に、大事なところがあっているかなというところについて、自分自身もそういう感じだろうと思ってんですけど、そういう点については、いかが思いですか。

調査員：人権課題については、先ほどおっしゃったとおり大事なところございまして、私もそこまでは表現について、見ておりません。見ていないのかと思ってなかったんですけども、学校の実態としましては人権同和教育については、各学校でも同和问题学習とか推進しておりますので、そういう

面において、教師のスタンスとしては、どの教科書を使ったとしても変わらないというのは、言い方悪いですが、きちんと確認というか、思っていませんでした。

委員：先生が思われることで結構です。

調査員：はい。同じような感じで受け止めておりました。

会長：よろしいですか。

委員：はい。

会長：公民で学習して、将来的な、持続可能な社会を作り上げる資質というかですね、それを学んでいくための教科だと思んですけど、SDGsについての扱いは結構違うなと思って、その最後の最後のところ、その辺りは何かこう、比較というか、その重要性みたいなところで、考えられた部分ではないんですか。

調査員：今おっしゃるように、持続可能な社会ということで、環境問題などやっていかなければいけませんけども、そこまで協議をしておりません。

会長：社会科の教科書でというよりは、いろいろな教科、横断的なところでやっていくことでもあろうかと思うので、ことさらこの公民の中で、深く大きくってということではないかもしれないんですけど。

調査員：先ほど教育長さんがおっしゃるように、色々な教科と関わってくることで、教科横断的に指導していかなければいけないところであると思います。

会長：今回の改訂教科書の特徴で、いろんなデジタルコンテンツが見られるような仕掛けがあるんですけど、その辺りで、この会社がいいかなと思われたところはありますか。

調査員：そこは歴史と共通してるんですけども、A社はですね一番独自のコンテンツを設けておきまして、その点も調査の中では、A社の教科書を推したところであります。

委員：公民で、今、問題になっている憲法改正についてのところだけでも、J社の教科書は、最後に、「国民主権、人権の尊重、平和主義の精神を新しい世代に受け継ぐには何をすべきでしょうか。そのために憲法改正が必要なのか、主権者である国民は、それぞれに考えて行くことが大事です」という、学習者に対して、あなたたちも考えんといけんよという訴えかけを憲法改正に関連して記述している。ところが、そのA社については、「憲法改正にこのような慎重な手続きがとられるというのは憲法が国の権利を制限し、国民の人権を保障する役割を持ち、重要な法であるため、国民主権の考え方をより強く反映させるべきだと考えられているからです。」憲法改正の手続きがなぜあるかという事実だけを記述しているが、J社は、あなたたちは考えないといけんのですよと記述している。というのを読むと、全ページ読んでないんだけど、何かこっちの方が、より学習者に対して、主権者としての覚悟や、自分の立場をしっかりと持ちなさいよという問いかけをしとって、いいのかなというふうに私は思ったんですけど。

調査員：18歳主権者になりますので、そういう意味ではそうした視点は、大事だと思います。

委員：そういう議論はなかったですか。

調査員：していません。不断の努力ということは大事ですので、そういう視点では、今おっしゃったところは大事な視点かとは思いますが。

委員：憲法改正について主権者に対して、憲法改正できる手続きがありますよ、で終わるのではなく、それはなぜか、さらにあなたたちもそのための権利を有する立場になりますよと、より深く、自主的に関わっていくことが必要ですよみたいな記述がある、いい教科書だなと思います。

委員：J社、いいと思います。

調査員：憲法改正に限らず、全てにつながっていくことだと思います。このことについてのところは、この前のところは、協議はしておりません。

会長：主権者教育の視点から確認したい大事なところということですね。

調査員：そうですね。

会長：他にないでしょうか。それではご意見ご質問ないようですので、公民の方の調査研究報告について終了とさせていただきます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

では続いて、数学についての調査研究の報告をいただきたいと思っております。出版社が7社と多いですので、それぞれの要点、特色を絞って紹介いただいて、調査の結論というところを分かりやすくしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

数 学

調査員：では早速説明に移ります。まず、順番にお話しさせていただいてから、総括とさせていただきます。まず、A社でございます。1年生の教科書、見ていただければと思いますが、皆さんにはないんですね。

委員：あまり詳しく言うと時間がかかりますので、端的に。

調査員：そうしますと、こちらの教科書は、大変丁寧な記述がしてありまして、それから単元のところ、通常ですと、第3章第4章、比例と反比例という感じで、単元構成されているんですが、この教科書は数量の関係、しかるべき問題を解決しようというふうな書き方がしてあって、その単元の中で学習し身につけたい資質、能力が単元として示してあります。解説も大変分かり易く示してあって、子どもが自分で学習を進めていくのに、進めやすいような構成になっているというふうに思っております。

それからB社ですけども、内容、程度の〇の二つ目に書いてありますが、考えようというところでは、めあて、活動という流れが示してありまして、子どもの見通しをもって進められるようになっております。それから総括の〇の2番目にも書いてありますが、実生活に即した課題を単元の最初に持って来て、漫画を取り入れたりしながら、学習に当たれるような工夫がされております。5番の2つ目の〇にも書いてありますが、社会にリンクということで、仕事の中で数学を役立てる方へのインタビューなどが載せてあり、これが各単元で取り扱うということで、キャリア教育の視点も多く取り入れた教科書となっております。

続きましてE社です。E社の教科書は、4番の〇2つ目に書いていますが、章の学習の後で、できるようになったことと、チェックするような構成になっております。その中で、さらに学びたいことを自由記述するような欄があって、この教科書を使って自分が何を学んだらう、さらには、どういうことが学びたいかということを確認にできるような工夫がされておりました。その他のところにも書いてありますが、他の出版社でも何社かありましたが、プログラミング体系ができるような付録がついているのもこの教科書の特徴でした。また、ホワイトボード用のシートも付いておりまして、子どもたちが対応しながら学習を進めているということが前提としての、色々な用具がつけられるということでした。総括のところの〇の2番目にも書いてありますが、導入問題で、Qという形で課題設定してありまして、そこから単元をスタートする形になっているんですが、そこで見方、考え方が設定してあって、考える際の重要なポイントが示してあると、生徒が学び易い教科書

になっていると考えています。

次、G社でございます。1番の内容、程度のところの二つ目の○のところに書いております。学習のまとめというのが章末に設けられておまして、要点を簡潔にまとめ、ここで確認することができます。特徴的なのは、そのまとめをした後で活用問題に進めるような構成になっておりますので、学習したことをしっかり振り返って、活用問題に生かせるという構成は工夫されているなというところでした。四番の最初の○に書かせていただいております。各学年とも、第1章を終えたところで、ノートの効果的な活用例が、見開きで示してあります。この單元ではこんなノートづくりができるんじゃないかというのが例として示してありまして、生徒が家庭学習を通して学びを深めることができるような工夫がされておりました。その他のところの最初の○のところに、数学的な考え方がまとめてあり、折り込み部分があるということが書いてあります。なかなか見ていただかないと分からないかもしれませんが、教科書はこう折り込みになっておまして、こういう工夫している教科書も何社かあったのですが、こんなふうになっております。ですから、閉じて別の学びに進もうと思ったときにも、この考え方をまた生かしながら進んでいけるというように、見開きを上手に使うことで子どもたちが、振り返るところに戻れるという工夫がされていて面白いなと思いました。

続いてL社です。L社は、これも見ていただかないとちょっと分かりにくいんですけども、特徴ですけども、こちらからは、通常の教科書としてこうやって使うんですけども、裏返しますと、縦型というか横型になりまして、こっちからまた1ページが始まっていくような形で構成されております。通常の学習を進めていく、授業での学習ではこちら、ということなんですけど、自分で学習を進めていく、また発展をしていく、まとめてというような時には、こういう見開きで学習を進めていくというふうな工夫をしております。まとめとして、教科書のどこと繋がりのあるということが書いてありますので、いろんな工夫がされているようなところがありました。データの活用という領域が今回、中学校の数学では新しくというか力を入れて、再編集された領域になるんですけども、箱ひげ図というのが、今回、高等学校から中学校へ移動になった内容です。その有用性につきましても、大きい2番の二つ目の○にも書いてありますが、その有用性について長所短所、両方を取り上げながら示してあるってところは、一番力を入れたところかなということでございます。

続いてN社です。大きい1番の二つ目の○に書いてありますが、章の前には、学習の前に振り返りがあります。会社によってどこへ振り返りを持ってくるかなんですが、学習のはじめのところで、この学習を通じ、進めるにあたって、まず振り返っておきたい内容というのを確認してから、新しい学習に入っていくという構成にしている、学習がスムーズに、進められるように配慮されておりました。それから総括のところの最初の○にも書いてあります。この会社は、別冊がどの学年にもついておまして、学習指導で探求したいことについては、こちらでさらに探究するというような構成になっているので、子どもが自分で進めるということができると思いますし、総合的な問題に取り組むということも別冊を使っているようになっております。それと、総括の二つ目の○に書いてありますが、数学的な活動を意図した場面では、数学的な見方、考え方を働かせて解決に向かう姿勢を対話形式にしておまして、その対話の形式の中で子どもたちも一緒に対話するような形にしている。この会社だけではなかったんですが、今回のこの会社は対話形式というのをを使って、その中に自分も入って一緒に対話をしていくという場面を作りながら、対話的で、深い学びができるというのも付加されておりましたが、この会社もそういう特徴的な、構成がなされていたということです。

最後になります。O社ですけども、5番の一つ目の○ですが、身近なことがらという小見出しがついて、学んだことと社会関連性がわかるような工夫というものが至る所にされておりました。数学の場合はどうしても社会や生活とは離れがちなところがありますが、中学校の数学と社会との関連を重視して構成されているというところでした。この会社につきましても、プログラミングと数学というものを挙げて、小学校でのプログラミング的思考というものが中学校でも継続されるような、工夫がされておりました。総括の最初の○に書いてありますが、切り取ってノートに貼ることもできる対話シートというものがついておまして、ほとんどの会社も対話を重視してるんだなというところなんですけど、教科書の最後に、対話シートというのをこのように巻末につけておまして、切り取って、これをもとに、グループでの対話をしていく、本書との関連で、対話シートをつけられ

ているというところも、すでに教科書にあるもので使うということでは、子どもも使いやすいものになってるんじゃないかというような気がしております。それぞれの特徴があるところではあります。調査員としましては、今回、最も学習するのに適切であると思うのは、A社にしたところで、記述が丁寧であり、子どもたちが、自分で教科書を通して、学びを進めていく、広めていくのに、大変丁寧な記述がそれに役立つだろう。それが、一番でした。それから、単元を通した課題設定で、とにかく数学は最初の課題がずっと続くということは難しいんですけども、最初のところで使った、単元の最初で使った課題を、そのまま、なるべく持続して、継続して単元を通して使えるような工夫がされているというところで、A社が適切ではないかというふうにしました。以上です。

会 長：はい。ありがとうございました。それでは、報告について、質問、意見があったらお願いします。

委 員：今1年生の教科書を見ているんですけども、単元を通した課題設定というのはどういう部分でしょうか。

調査員：例えば、113ページですけども、113ページから始まる単元の課題なんですけども、プールの課題が設定してあります。ここからスタートしてまずは、関数とかは何か、比例とは何かっていくんですけども、123ページのところにも、その課題を生かしながら、比例の学習へとつなげていこうというように関連をつなげていこうという構成が見られます。それから、続いて反比例のところにも入っていくんですが、反比例のところでも、綺麗にはなっていないですがプールのものを一緒に考え続けて考えながら、この単元でも、プールの課題を継続させていこうというのがあって、中学校では、全部の単元を通してというのは難しいんですが、そういう工夫をしているところが、他の教科書との違いがあるのかなと考えています。

会 長：別冊になっているものがあったり、裏から見られるようなものがあるっていうことであるんですけども、他教科でもノートが別になっているというものがあって、それも工夫なんでしょうけど、授業をされる上でそのあたりは、逆にどうなのかっていうところは。

調査員：調査員でそこまでの話はしてなかったんですけども、特にあるから困るとか、あることで、非常に役立つというようなものでもないかなというところが正直なところです。

会 長：生徒が逆に、それを使っていける仕掛けになっているということで、逆にそれが無いという教科書は、それが中に織り込まれているというふうに考えていいですか。

調査員：はい。そうです。単元の流れの中で子どもが見やすい構成になっているか、切り離してこう見易く構成されているかの違いで、同じような物がちりばめられるというふうに感じています。

委 員：算数、数学っていうのは、できるできない、分かる分からないというものが、はっきりするもの。分からない子はなかなか分からないし、できる者はさして教えなくてもどんどん進む。そういう子にはこういう別冊のものと、できた人は、これを使って自分でやりなさいよ、みたいなことができるかなと思いますが、普段学校ではどうなんですかね。これがないと、例えば、問題3をしなさいよと言って、早い子はどんどん進んでしまう。そういう場合は、別な問題集があって、それをしてねという対応を今学校でしてるという話ですね。

調査員：教科書とは別にもう一冊購入しておりますので、それを使うことが多いですね。

委 員：だから、別にこれがあつたから、特別有益ではないということですね。

調査員：ない方が何にもそういう工夫をしてないかと言いますと、本来やっぱり特徴的なのかどの会社もそうですけども、QRコードがあるところが多くて、さらに発展的に学習するものについては、Webで見てくださいっていうような対応をしている会社も、数社ありましたので、そういうふう

えています。

委員：教科書会社によってですね、全体にすぐ回答があるもの、それから回答がないものと、いうようにして、二つに分けられるのではと思っております。それについて、1番目と、全て見ておりませんが、それだけでも、その辺のところ、調査の方で話題になったかなと思っております。

調査員：調査員のところで例題の回答についての記述はなかったんですけども、ただA社は、そこも含めて丁寧に丁寧に書いてあって、例題の回答もそうでした。教師が教える分にはすぐに回答が書いてあると、なかなか教えるのに、ポンポン先へ行かれても困るなっていうところもあるんですが、調査委員の話では教え易さよりも、生徒の学び易さ、これを活用して、家庭での学習自学が進み易さというところを重視した方がいいんじゃないかという話で、丁寧に記述してあって、回答もすぐ書いてあるかもしれないので、A社について、評価が高いと感じています。

委員：自分自身も全部見なかったもので、つまりくところはどこかなと思いつつ、一次方程式のところだけをちょっと見させてもらって、実生活に関わる、お姉ちゃんが先行って、弟が追いつく速さの問題ですね。そのことだけを取り上げて、見させてもらって、A社の分は活用なので、その部分は、丁寧にはしてあるんだけど、答えが出そうな感じだけど、出していないですよ。2番のところはその辺がズバリと書いてあって、すぐ書いてあってもすぐ活用は力がかからないだろうと思っているんです。というようなことを思っていて、そういう意見を持ったら、どれもそれなり工夫してあるんですけども。やっぱり、すごい生活に生かすというか、そういうところが大事なところかなと思って、その辺調査員のご意見かなと思って見ました。

会長：他にいかがでしょうか。ないでしょうか。それでは、数学についてありがとうございました。それでは、理科の方の調査研究の報告をお願いいたします。5社ありますので、それぞれの特徴について、ポイントを絞って簡潔に説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

理科

調査員：お手元の資料に入る前に、今回の理科に関する指導要領の改訂についてなんですけれども、目標が変わっております。自然の事物現象を科学的に探求するために必要な資質能力を子どもに育成すると、いうふうになっています。簡単に言うと、何かに出会った時に、「えっなんで」となり、学習して、「そうだったのか。」となる部分がこれまでよりも、より強くなっているというところが、今回の理科の大きな変更点でございます。そういうふうにするために、学習がテーマ、すなわち授業の流れを、課題をまず掴む、そしてそれを探求していく。そして、結果を考察して発表する。そのような学習過程となっております。求めるその学習過程で最も重要なのが、主体的対話的で、学びに繋がる主体的というところなんですけれども、課題を子どもが自分で掴むというところがとても大事になってきます。実はこの力というのは子どもにはなかなか備わっておりません。皆さんのお子さんがおられれば、小学校、中学校の時、夏休みの自由研究、何にしているかわからない。即ちこれは、色んなことに普段出会っていて、なんでって思っていることがあるんだけど、それを残念ながら、見つけて課題にすることができていない、ということなんです。その辺を、今回の改訂で、力をつけていくことになっています。そうすると例えば今、この中にあってですね、マスクを着用しています。でもそのマスクの着用も、こうやって外した方がいいよ、外した部分が、ごみ箱に入れるだけじゃなくって、何かこういうふうにしてからするといいよとか、これ全部科学的な理解がないと、できないんです。言われたからそれをする子どもから、自分で科学的に考えて、工夫できることも、変わっていく。手洗いもこまめに手洗いしなさい、手指消毒はこんなふうにしなさい。全部言われてやるんじゃない。自分でその意味を理解して行っていくことがやっぱり、この子どもたちが将来、新しい出来事に出会ったときに、それを解決していく装置になると、いうふうなことでございます。課題を掴むってことで、教科書の写真が遠くで見にくいと思いますが、ピーカーに水が入っていて、そのピーカーの後ろにチョークが1本立っていて、それを皆さんの方から見ていただいたときに、こんなふう、チョークがずれて見えるんですね。水を通した部分と、水を

通してない、上の方に空気中でそのまま見える部分と、チョークが、こういう風にずれている。それを、大体の教科書、それから今までの教科書も、ポンとそういう写真をまず見せて、それで、こういうふうにチョークがずれて見えるけれど、それについて調べていきましょう。というような格好になっております。ところが、この教科書では1年の152ページなんですけれども、ずれてるところが、わざと隠してあります。こういう写真をまず見せることによって子どもが、別にまっすぐのままでしょうとか、それから、ずれるかもしれないけどそれがどういうふうになぜずれるか、これまでの経験から得たものでまず予想するわけです。そして、これを実はって言って隠してあったところを剥がすと、このように曲がっている。ここで、えって思うんですね。子どものスピードで、えっと思わせて課題を掴ませる、こういうふうに、工夫をしている教科書があるわけです。そのように考えたときにですね、お手元の資料なんですけど理科は、5社ありまして、今紹介したのはA社、A社は、特に課題を使うあたりでそんなふうな工夫をしています。5社とも、新学習指導要領の趣旨に沿って、工夫がされています。さすが専門家が作られた教科書だなと思います。もうほぼ、変わりはありません。

ですが、大きな特徴というところが、A社は非常に子ども中心に考えられているな、というところから、初めに申し上げますが、A社が特に優れているのではないかと、理科の調査員たちと話し合っていて決めたところです。

それで、まずA社の特徴を申し上げますと、このような教科書でございまして、これがよくある教科書でございまして、見ていただくとわかるように、長いんです。最初これを見たとき驚きました。これ本当に子どものカバンの中に入るのだろうか。心配しました。入りました。この長さはA4の紙のフラットファイル、あれと同じ長さです。普段、学校でもA4のフラットファイルを使っていますので、子どもが持ち運ぶという点では問題ございませんでした。なぜこんな格好にしたんだろうなと思って見たときに、さっき言いました、課題を科学的に探求する流れ、課題を掴んでそれを実験で調べて、そして、結果を解釈していくっていうことが、こういう見開きの1ページの中に、このようにすべて収まっています。この会社のこれまでの分は、やっぱりこういうサイズがあったもんですから、全部を入れられなくて、一部が次のページに行ってしまうんです。ですが、こうやって1ページ、見開きにまとめることで、子どもたちはこれを、実験台に置きながら、実験の操作をしたりします。そうすると、全体の流れの中で今どこをやっていると、そういうことが非常に捉えやすい、その辺が、冒頭に申し上げました子ども中心に作られているなあとというふうに感じるところでございまして。それから、この下のところに、以前の分はパラパラ漫画があって、水の入った風船に針を刺して、その風船が破裂するところなんか、パラパラ漫画であって面白かったんですけども、今回は、さっき言った学習の流れが全部のページにこうやって書いてあります。学習の流れっていうのが、今は、問題発見をしてる部分ですとか、それから、結果を分析解釈しているところですか、そういう1時間の学習の中での、現在の位置ではなくて、単元という10数時間の学習の流れの中で、今、このあたりをやりますよっていうことがわかるようになっていきます。学校の授業の中で、黒板のところ、授業の流れを変えて、そして、今ここをやりますよ。10分ぐらいだったら、今度は第二段階のここをやりますよ。なんていうふうにユニバーサルデザインして、配慮のためにすることがございます。最初、そういうことで、こういうページの下に表記があるのかなと思いましたが、よく考えてみると違っていました。この、流れを子どもが身につけること、それが目標の、科学的に探求するために必要な資質能力を身につける。こういう流れに沿って、科学的に調べていくんだということが、毎時間毎時間分かるように、教科書の中に表示されている、ということなんだなあと分かりました。この点も、子どもを中心に、この教科書が作られているなと感じるところです。ちょっと離れて教員のことなんですけれども、実はもう、これはA社の一番下の分量のところ、書いてありますが、105時間分の内容が、この1冊に入っています。こうページめくっていただいて、E社の分を見ていただくと、77時間分が入っているんです。105時間と77時間、同じ1年生の内容が、教科書でそれだけの時間差が、E社は何を狙っているかという、先生方の創意工夫で、教科書とは別に探究活動をする時間を30時間ぐらい取ってるんです。ですが、A社はそういうことはしていません。この教科書に沿って進めていけば、年間の理科の1年生105時間を使うような流れになっています。理科の教員も指導経験の長い教員もいれば、新採でこれから1年目なんだというような教員もおります。ご存知のようにワイングラス型の今の年齢構成でございまして、これから新しい若い先生方がどんどん入ってきます。ベテランはどんどん抜け

ていきます。そういう中で、力量がある教員だったらE社の教科書なんかはとても魅力的なんです。自分の創意工夫を働かせる時間ありますから。ですが、初任者のように初めて指導する者が、E社の教科書を持つと、時間も余すと思います。その点、A社の場合は、さっき言った課題を掴むところがとっても大事なんだけどそういう掴むような作りがしてある。そういうような教科書の流れに従ってやっていたら、もしも、新学習指導要領の十分な理解がなかったとしても、子どもにつけたい必要な力をつける手だてになる。そのようにこのA社の教科書については、感じます。そうやって、この教科書に従って学習を進めることができるっていうのは、コロナで、もし第2波第3波が来て、学校が臨時休校になるという場合についても、この教科書を自分で進めることができるんです。実験などはできないところもありますけれども。そうすることによって、最初から言ってます科学的に探求する力を一人学習でもつけていくことができる可能性のある教科書だなあというふうに思っております。また、話し合い活動などがこの様に教科書の中にイラストで登場人物が何人か出てきて、吹き出しで、その人物がしゃべってるんですけど、実は、今後はとても、話し合い活動を授業の中で進めていく上では、大事です。極端な話しをしますと、もし今、少子化で子ども的人数が少ない、そんな学級があったときに、話し合いをさせたいと言っても、自分の考えと違う意見を言う友達が少ない、いない。そんな学級もあると思います。ですが、このようにして、教科書の中のキャラクターが、自分と違う意見を言ってくれたりすると、その教室の生徒数が少ない分を、これで補ってもらうことも、少子化対応にもなってる、というふうなこともあると思います。あとは、この5社について特徴的なところだけを述べたいと思いますけれども、A社については特徴的なのは、6番のその他のところに書いてますけど、デジタルコンテンツ、それが充実している、5社の中で一番量も多い、それから、自分の会社で作ったデジタルコンテンツというものが沢山ありました。ただA社の場合は6番の一番下のところに書いてますが、ガスバーナーを使用する実験で、準備物に保護メガネが書いてないんです。他の4社はすべて書いてあります。目を守るっていうのはとても大事です。そここのところを除いては、とても、子どもを中心に考えてられていると思います。

次にB社でございます。B社の特徴としては、大きい二番の列の、下の方に書いてますが、育成する資質能力を各学年で重点化しているということが特徴です。課題を掴む、これは、1年生で重点的に扱う、1年生の教科書には、これに費やしているページ数が多いです。2年生になったら、今度は探求する力、3年生になったら今度は分析する力とかです。そのように重点化して、力をつけようとしているということが特徴でございました。

めくっていただいて、E社ですけれども、E社は、途中申し上げました。教科書の内容を扱う時間数が、80時間程度というふうに少なくして、教員の裁量で、発展的なものとか、課題解決的なものを入れる、そんな時間が作ってあるのがE社です。

それからG社。G社は、大きい4番の列に書いていますけれども、さっき言いました、学習の中で課題を掴むところから、最後の考察をするまでの流れが、折り込みで、用意してございます。このように、ちょっと長くなっています。ここに理科の学習の流れがこういう風になっています。ですから、どのページを開きながらでも、常にこの流れが見える、そんな工夫がしてあるわけです。

それから最後L社ですけれども、大きな6番のところに書いておりますけれども、文字のサイズ、1年生が少し大きめにしております。こういうことで、中1ギャップに対応しようというふうな特徴がございました。以上でございます。

会長：ありがとうございました。先ほどの調査報告について、ご質問ご意見があればお願いします。

委員：伺わせていただきます。今、地球的に一番関心が高いというのが、環境問題ではないかと思います。子どもたちにもやっぱり市民として、環境に配慮した生活ができるような、人間に大人になっても関わらないといけない。そういう意味で、理科というのは非常に大きな役割を果たすのではないかと、いうふうに思っています。それで、3年生の最後のところに、まとめというか、環境と生活みたいなところがあります。そこで今一番問題になっているプラスチックごみについての記述を各社載せています。私、分量を調べたら、L社が5ページで、一番プラスチック問題に単独で5ページ割いていました。他のところは2ページとか3ページで終止していました。そういうところで、このL社の環境に対する姿勢みたいなところというのが出ているのかなというふうに思います。先ほどの3

人の先生で、一つは、力と仕事、それから発電エネルギー、発電等があるんですけども、L社以外は、力と仕事は、前の単元でやって、エネルギー、電気を起こす仕組みというのは、最後の別の単元に分けてあるわけです。ところが、L社だけは力と仕事と、それからエネルギー問題を一緒に扱って、力と仕事、エネルギーの中に熱エネルギーがあると。その熱エネルギーを、利用して、地熱発電をやってますよ、ということで一緒になって、力と仕事とエネルギーを一つの単元に持ってきて、構成をしてるというのはここだけでした。そういう意味で私は強く、このL社というものに、この2点で惹かれたという部分があるんですけども、特に力と仕事とエネルギーを一緒にしたと。単元構成としてですね。これは画期的かなと私は、見たんですけども、そういう話し合いは、なかったですか。

調査員：委員で話をした時には、そのことは話題には上がっていませんでした。今おっしゃったのが、3年生で、仕事とエネルギーという単元があるんです。

委員：そうですね。

調査員：はい。

委員：そこが出発するのが、途中からいうと、209ページ、仕事とエネルギーで出発をして、それで、地熱エネルギー、運動エネルギーとしてエネルギーの変換のところ、そして、うまく232ページから水力発電、火力発電、原子力発電というエネルギーの発電に関わってきた問題を連続してやってるわけです。

調査員：その230ページからの部分のことをおっしゃってるわけですね

委員：そうですね、だから、仕事とエネルギーで連続をして、発電につながっていると。他社はすべて仕事とエネルギーは仕事とエネルギー、それから原子力発電とか、増えても発電とか地熱発電とか水力発電とかは最後のところへ持ってきて、発電をこういうふうにしてるんだよと、いうふうに分けて設けられておると、私はやっぱりエネルギーというのは、一緒に扱った方が、子どもたちも思考の流れとしていいのではないかとかと、いうふうに判断をさせてもらったんです。

調査員：はい。先ほど言いましたように、委員についてはこのことについての協議をしておりませんが、ちょっと私の、個人の考えとしては、まずどの会社も、そういうエネルギーの重要性ということは、捉えている。それで、教科書のどの部分に入れているかっていうのは、違いがあるけれども、教科書の中には入れているというところがございます。それで、1社だけが、より、関連のある仕事という学習した直後のところへ盛り込んでいる。他社は全部、3年生の学習の最後のところに置いている。3年の学習の最後のところに、これを置いているのは、やはり物化生地という、その分野の壁を越えて、トータルに考えさせたいというところが、3年の最後に入れているという理由だと思います。その中でも、より関連の深い物理のエネルギーの後に、これを配置するというのも、おっしゃる通りの意味があると思いますし、物化生地、全部学習した後で、それを扱うというのも、多面的な見方をするという点で意味があるのかなと思うところです。

会長：いいですか。

委員：はい。

委員：A社が大変優れているとお話いただきありがとうございます。僕は反対に、A社の1ページの下のところですね、ちょっとあっさりかなと、いう感じを受けました。最初のところに密度の問題があるんですけども、このところの実験あたりが、教師がやればそうなんだろうけどもちょっとあっさり、1ページに収めたことで、後の会社は丁寧に載せてあったりとかですね、という感じが一点。まあ、その辺りはお伺いしてみたいところですけども。それから第2分野についてです

ね、生物の一番最初に出てくるんですけども、ここのところが、ちょっと図だとか絵だとかのところを見ると、先ほどのL社の方は良くまとめてあるのかなと思いました。その興味関心のところは確かにいいなとも思いました。もう一点、一つは1年生のところで、地震のところで、初動と、P波S波とのところで円心上を調べてどうなるかという、まあ、水でポンとやったら円心上にこうなりますよという実験も結構違うのではないかと、私も知識がなくて、式をやって何メートルだというのがよく高校入試にも出ますけども、ちょっとその点を中心に調べさせてもらいました。そこがA社はですね、結構あっさりというか。詳しくすぎるのもどうかと思います。G社はですね、例題があって、反対にこの例題が多すぎてこれ全部やった時間が終わらんというのでもあって、色々と比較されたと思うんですけど。そこは話し合いとかそういうところはなかったか。一つは今、先ほど言った、取り掛かりの課題がいいんだけど、途中の実験手法というのが、ちょっとA社はあっさりしているなというふうに思いました。そこの2点ですね、もし、しておられたらお聞かせ願えないかと。

調査員：この理科に限らない、まあ理科の方が特に強いかもしれませんが、どういう教材について考えるか。こういう教材の部分と、それから子どもたちの中に、認知させていたりとか、思考力を高めていたりとかという、その学習理論の部分とありまして、今回学習指導要領の改訂で最も大きいのは、この教材論と学習論の、学習論の方にウエートがこう移っていつている。そういうトライをして、この教科書の選定の協議をしました。すなわち子どもの学習という目で評価しましたので、今おっしゃったその教材の部分です。実験を、この内容が少し少ないんじゃないとか、そういう点の協議をあまりしてないというのが、協議の実態です。それで、協議をしていけば話してくれということであれば、今指摘されたところの協議をしていないので、個人的な意見しか言うことができない状態です。

委員：それで構いません。

調査員：はい。個人のことを言うにあたっては、ちょっとそのあっさりっていうところも少し教えていただく。

委員：課題を使うんですね、次の実験の方法だとかが、丁寧ではない、簡単にしちゃったんですね。こういうことがあると、その教師がそれを考えてされると思うんですけども。

調査員：密度の実験。

委員：1ページに収めるので。

委員：他の教科書は1ページに収めていないということですか。

調査員：収めるようにはしていますけれども、収めるがために、行間がものすごく詰んで、それで子どもが実験をやりながら、見ながらやりながら、より見たいところを把握できるようにしているというところがあるかなと思います。

委員：見易いということですね。

調査員：見易いということです。

委員：実験の操作、操作方法を1ページには収めてあるわけですよね。

調査員：部分的に後ろに収められているというのはあると思いますけれども。

委員：普通、1ページには収められると思われる。各社とも、その点が工夫してあって、縦長だから行間が広

いということはあるかもしれません。

調査員：他社については、実験の操作はページをめくらなくてもできるけどそのあとの結果のところは次のページに載っているというのはあるんですが、それをなるべく、見開きに収めようとしてるのがこの縦長なんです。

委員：他社は、実験を計画でやって、答えが、まあこれも答えは書いてないけども、そのところで次、実験どうだったかなという工夫で、逆ページに答えが載っていると。見開きにすれば、A社はそれで流れは分かるんだけど、答えがあるのはどうかと。結論は書いてないけども。流れとしては確かに全体の流れは、1ページで分かり易いというのは、今までと違って画期的だということは、ご指摘のとおりだと思います。

調査員：大胆なというか。

委員：大胆というか、それで先生方が戸惑われるようなことはないですか。

調査員：例えば今の密度の部分、実際、教科書開いてみたんですけども、別の教科書には、鉄のキューブの絵が載っていたり、銅のキューブの絵が載っていたり、アルミニウムのキューブの絵が載っていたり、そういうことが、A社の教科書の83ページにはないという事なんですけれども、先生が困らないだろうかという時に、A社であれば82ページに、物質の例が載ってまして、鉄やアルミニウムやプラスチック、写真でそういうこともありますし、また、これとは別に、教科書会社を作る指導書も、教員が見た上で授業準備をするということからすると、教員がこれによって困るということは、あまり考えなくても大丈夫だと思います。

委員：そのすべての実験において質量や体積を量り、密度を求める、普通は1ページだけど半ページでこれ終わっているというところが、記述的にそういうことは、詳しくないというか、自分で考えるというのは、反対にはいいかもしれませんが、若干そういうところもあるのかなと。

委員：このガスバーナーの使用するときの保護メガネが他社ではどこに出ているんですか。

調査員：はい。例えば、E社であれば。

委員：1年生ですよ、当然。

調査員：B社であれば、ガスバーナーを使う実験は、すいません、2年生でもいいですか。

委員：大抵1年生でガスバーナーは使うでしょう。

調査員：今おっしゃっていただいているのは、ガスバーナーを使うその時間のところに保護メガネが書いてあるかどうかっておっしゃっていますね。私が今書きましたのは、例えば2年生で、酸化銅を還元するという実験があって、ガスバーナーを使った装置を組んでやるんですけども、ここに準備物として必要なものという欄があり、その中に、ガスバーナーだとか、薬さじだとかと並んで、保護メガネ、と念押しで書いてあります。

委員：他も全部書いてある。

調査員：書いてあります。こちらの会社では、その実験のところに保護メガネっていうのが書いてないです。

委員：ガスバーナー使っているときは、A社では子どもは保護メガネはやっているけれども、準備物としては書いてない、載っていないということですね。

会 長：知識としてガスバーナーを使うときには、それは必需品だという扱いをしているんですかね、このA社っていうのは。

委 員：書けばいいのに、と思いますけども。

調査員：それから、個人的な話になりますけども、出雲市で10数年前に、実験中の事故がありました。その事故を受けて、中学校理科教員で、事故防止のためのマニュアルづくりを1年間かけてしました。そこで、ガスバーナーを使う実験の時には必ず保護メガネを着用させようということにしました。やり始めた時はみんなやりましたが、教員が変わっていくうちに、だんだんそれが薄れていって、4、5年前ぐらいには、理科のガスバーナーを使うときに、保護メガネをさせない、させるという申し合わせがあったことを知りませんでしたっていう教員が出雲市にも出てきましたというようなことを考えると、やっぱり単語が載っていると、安全性が高まる、しかも目に関わることですから、大切にしたいと思います。

委 員：ぜひ書いておいて欲しいですね。

会 長：他いかがでしょうか。追加のご質問はございませんですか。保護者代表の委員さんよろしいですか。

各委員：はい。

会 長：よろしいですか。それでは、理科についての調査研究報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。

それでは、午前中の日程はちょっとずれましたけれども、お開きとさせていただきます。ありがとうございました。

～ 昼食休憩 ～

採択協議

会 長：それでは再開させていただきます。まずは午前中に報告をいただいた、8教科種目についての採択ということで、協議をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

国 語

会 長：最初に、国語で種目としては国語です。資料の1ページから2ページにかけてありますが、報告では、A社が最も優れているという報告でございました。続けて、I社でございましたけれども、A社ということについて、皆様のお考えはいかがでしょう。

異議がなければ、A社ということで採択をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員：はい。

会 長：では国語については、A社とさせていただきます。

書 写

会 長：続いて3ページ、4ページの教科国語の種目は書写でございます。

これについては、A社が最も優れている。続いたものとしてはG社となっております。

A社ということについての皆様のお考えはいかがでしょう。

各委員：異議なし。

会 長：よろしいでしょうか。

各委員：はい。

会 長：では、異議がございませんので書写については、A社を採択としたいと思います。

地 理

会 長：続いて、教科社会、種目は、まず地理でございます。5ページ、6ページでございますが、先ほどの報告の中では、J社が最も優れている。続くものとしては、A社ということでございました。J社とすることについての皆さんのご意見はいかがでしょうか。

各委員：いいと思います。

会 長：よろしいでしょうか。

では、異議がございませんので、教科社会、種目地理については、J社を採択としたいと思います。

地 図

会 長：続いて、教科社会の種目地図でございます。ページを飛んでいただきまして13ページでございます。調査報告としては、J社が最も優れた教科書ということでございましたが、皆様のお考えはいかがでしょうか。

各委員：異議なし。

会 長：異議ございませんか。

各委員：はい。

会 長：それでは、教科社会、種目地図につきましては、J社を採択とさせていただきます。

歴 史

会 長：では、ページを戻りまして、教科社会、種目歴史でございます。7ページから9ページまででございました。報告の中では、A社が最も優れている教科書という報告でございましたが、皆様のお考えはいかがでしょうか。

各委員：いいです。

会 長：よろしいでしょうか。

異議がございませんので、教科社会、種目歴史については、A社を採択とさせていただきます。

公 民

会 長：続きまして、教科社会、種目公民でございます。10ページから12ページにかけての報告でございました。報告では、A社が最も優れた教科書であり、続くものとしては、J社でございました。A社とすることについて、皆様の意見はいかがでしょうか。

委員：私は途中、J社がいいというような意見を言いましたけども、全てを見た上での判断ではないので、A社でいいのではないかと。全てを見た結果がA社ということになれば、それに従いたいと思います。

会長：はい。主権者教育という視点から見てということもございましたけれども、先ほど委員委員の方からありました、全体的に見てA社でいいのではないかとということでございましたが、皆様のお考えもそれでよろしいでしょうか。

各委員：はい。

会長：それでは、異議ございませんので、教科社会、種目公民については、A社を採択としたいと思います。

数 学

会長：続きまして、数学でございます。14ページから17ページにかけての資料で報告がございました。最も優れているとして報告されましたのは、A社でございます。続くものとしては、L社でございますが、A社ということについての皆様の考えはいかがでしょうか。

各委員：結構です。

会長：異議ございませんか。それでは、教科数学につきましては、A社を採択とさせていただきます。

理 科

会長：午前最後の最後は理科でございました。18ページから20ページにかけての報告でございました。最も優れている教科書として報告されましたのは、A社、続いては、B社ということでございました。最も優れた教科書であるとされました、A社について皆様のお考えはいかがでしょうか。意見の中では、力と仕事、エネルギーのところの単元の扱い、というようなこともございましたけれども。

委員：私がそれを言いましたけども、理科について、私も理科の教員ですので、全ての教科書を見させていただきました。その結果、先ほど言いましたように3年生の単元配列について、優れている教科書ということ、或いは、環境で、プラスチックを一番、長ページにわたって扱っているレベルの教科書ということでした。A社の教科書については、研究調査員からも指摘があったように、ガスバーナーを使用するときに、メガネということが書いてないということで、やっぱり私は教科書を作る上で、細心の注意が払ってないと、生徒の安全面に関するところが欠落しているっていうのは、これは問題ではないかと、こういう観点から私はA社には同意しかねて、L社を推薦したいというふうに今思っております。

会長：はい。他の委員さんのお考えはでしょうか。他のご意見はございませんので、委員の中での意見は分かれている状態でございます。従って、会則におきます、選定の方法、第11条の1項、委員の全員一致で決するという状況ではないというふうに考えております。ただ、先ほどの委員委員からありました、L社の点についてのご意見として、他の委員さんの方はどういう考えか、もしお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員：私はですねL社の良さはありますが、A社をあっさりという言い方をしましたけども、むしろ、G社の方がいいかなんということは思っているんですけども。ただ、調査員の方のその一点、ガスバーナーの部分あるんですけども、斬新的なところと、考え方の一番最初を大事にするということ、

そういう点で調査員報告もありましたけども、確かにメガネを追加するといいいということがありますが、A社の教科書もいいかなと思っております。

会 長：委員さん方で、今、お考えとしては、A社とL社というところで分かれていると思いますが、ご意見があれば、述べていただきたいと思います。

特にないようですが、そうしますと、会則の11条、先ほど規約の方で触れましたけれども、選定につきましては、委員全員の方が一致するということが大前提でございます。ただ、それが整わない場合は、当該種目、それぞれについてですね、教科用図書についての投票を行って選定をするということに繋がります。従いまして、今回、調査報告では、A社、そして、意見がございましたけれども、A社、そしてL社の2社ということに分かれていますので、これは、投票という手法でしょうか、それとも挙手という手法でも良いでしょうか。どっちですか。

課 長：投票の方法手段までは書いてないですが、こういう投票というのは、誰が何に投票したかわからないための投票が必要ではないかと。

会 長：では、投票で。

課 長：夕方までに準備しておきますので、これは保留ということよろしいでしょうか。

会 長：はい。それでは投票という形での選定を実施したいと思います。準備に少し時間かかりますので、理科につきましての採択協議は一旦保留にさせていただいて、後に、投票準備が整った段階で投票という方法により採択をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

調査研究結果の報告

会 長：午前中に報告がありました教科種目についての採択協議はこれで一旦終了させていただいて、引き続き、午後の教科種目に移らさせていただきます。

午後は、音楽から特別の教科道徳まででございますので、午前中と同様に、順次、代表調査員の方から報告を受けたいと思っております。

最初は音楽報告でございます。それでは、21ページからの音楽、まず一般について。

音 楽

調査員：よろしくお願ひします。それでは、音楽一般について説明をさせていただきます。

まず教科書ですけども、私ともう1人研究調査員おりましたけども、最初にこの教科書を手にしたときですね、これがH社です。これがG社なんですけども、もう一人の調査員が言ったんですけど、これはもう表紙から見てもいいですよって言うので、子どもたちが絶対これ、ああやりたいって思って食らいつきますよって言ったのがこのH社だったんですけど、そういったところから入って調査をさせていただきました。特に、両社ともいい点いろいろ書いておりますけども、こちらはですね、G社の方は、中にこういった書く欄が、自分達で話し合いをして、主体的に書いていくという欄が設けられています。それはそれでいいんですが、音楽の教師としては、使う方としては、これはノートではないので、ここに記述をどんどんしていくということになると、その分だけ他の紙面が割かれてしまうということがあって、それはどうかなということを感じております。それからG社の意見としては、ページの頭の方に、こういった作曲者のエピソードを載せて興味関心を引くようにしてありまして、非常にそういう点ではいいかなというふうに思っております。それからもう一つ、G社の方については、今年初めてこうやって、音楽は歌唱、鑑賞、創作と、三つの領域ありますけど、その領域について、だいたい1年間でどういふことをこの教材を使ってどんなように学んでいくかということをもとめたこういふのを、作られたというのがいい点かなと思ました。ただし、目次のレイアウトが非常に見にくくて、ちょっと曲を探すのは難しいかなと思ったりしてお

ります。それから、あと、この全体見ていただいて、周りが色で囲ってありますが、ちょっと色もくすんでいるような感じで、受けた印象がちょっと暗いなっていう感じがありました。

もう一つのこのH社ですけれども、H社については、写真とかが非常に鮮明でして、使われている写真もクリアですし、非常に鮮やかな色合いが使われてるなということがありました。それから、非常にパッと見て鮮明である、明快でありますし、そういったところが特徴だと思います。それから、音楽教師として使っていく上で、いろんな点で、順番を追って、平易なところからだんだん難易度を上げていけるような、配列なっているという部分が非常にいい点ではないかというふうに思います。それから、実はこの文の中では、特に、2、3年生でもですけれども、この裏表紙のところに郷土の祭り、芸能として、出雲の神楽の写真が掲載されています。そういったところで、郷土に対する愛情を育てる点でも非常にいいかなというふうに思っております。H社としては、全般的に現場で使う我々教師にとってもですけれども、非常に使い易い、色んな工夫がされているというのが、総合的に、非常に良い点だなというふうに感じています。これが一般であります。

会 長：2社から出ております、音楽一般について報告がございましたけれども、ご質問ご意見ございますでしょうか。
ございませんでしょうか。

委 員：はい。

会 長：それは続けて器楽の方をお願いします。

調査員：それでは続いて、器楽の方の説明に移らせていただきます。

同じようなことが言えるんですけれども、写真とかを両社とも同じように使っておりますが、G社の方は、例えば器楽の本ですと、いろんな総合ですとか、簡単な曲で基本的なところから学んで難しい曲にっていうふうにします。ですけれど、最初に学ぶ曲が、小節がちょっと長かったりとか、多かったですとか、非常に難易度が、レベルは高いかなというのを思っています。それがG社です。

それから、曲数は多くあるんですけれど、それは、本当に曲数だけ載せてもらう方がいいことなのかっていうのは非常に現場の我々としては、少し疑問を感じてるところがありました。それから、あとは、目次とかで、この3年間に器楽で何を学ぶかっていう一覧にしたところは、この分にはないんです。一般の方では作られていますけれども、この本にはありませんでした。

それからもう一方のH社の方は、先ほど言いましたけれどもやっぱり写真とかが非常に鮮やかである、とてもクリアな明快な写真が使われているということです。あと、平易な曲、だんだん親しみやすい曲からよく知ってる曲を使って、導入から始めてどんどん難しくなっていくというふうな感じで配置されていますし、あと親しみやすい、自分が演奏したり合奏したりする曲も、子どもたちがどこかで聞いたことがある曲ですとか、そういったものが多く使われているという点で非常に優れているなというふうに思います。それが、このH社でありました。以上です。

会 長：はい。ありがとうございました。

表現からするとちょっと分かりにくいんですけれども、器楽についても、H社の方が優れているということではよろしいですか。

調査員：はい。その様に私たちは考えています。

会 長：はい。器楽についての調査報告でございましたけれども、ご質問、ご意見ございますでしょうか。確認ですが、一般、器楽とも、H社の教科書の方が優れている。

調査員：そうですね。そういうふうに調査の結果、思っております。

会 長：他、ございませんですか。

各委員：はい。

会長：それでは、以上で音楽の方の調査報告を終えたいと思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。

それでは、教科美術についての調査研究報告をしていただきます。資料が、23ページと24ページになります。3社ございますので、要点を明確に報告の方をお願いします。

美術

調査員：最初のD社ということで、統括のところにも書かせていただいておりますけど、前回の教科書と比べて、ワイド版を活用されたということで、図版が大変大きくなって、あと、美術には美術、工芸という大きな2つの分野がありますけれども、工芸史料が多彩に掲載されたことで、前回より優れた教科書になっているかなというふうに思っております。また、学習内容に対応したマークを活用することで、要点が紙面の中にわかりやすく掲示されているということも大きな特徴かなというふうに考えております。

次、I社につきましてですけれども、思考の過程がわかりやすく具体的に示されることで、主体的な学びに繋がる工夫が見られています。特に、3年生の教科書は、1冊になっておりますけれども、それらが工夫されているかなというふうに思っているところです。あとは1年生の教科書と2、3年生の教科書について、各題材とも、作品制作に当たるときに、対象をまず、どういうふうに設定し、鑑賞をしたことから、学びに繋がるという、そういう学習の流れが、すべての題材に対して、共通して設定されていて、指導者としては、流れが非常に分かり易い授業展開しているというふうなところで、特徴があるかなというふうに感じています。

最後、O社ですけれども、この会社のみ、教科書が3冊分冊でして、1年生の教科書と、2、3年生については、上下巻に分かれて3冊となっております。3冊あるということで、非常に資料が豊富に掲載されていますし、しかも、A4ワイド版ということで、前回の教科書改訂のときからワイド版になっておりますけれども、やはり図版が大きく、はっきり分かり易く、また、大判化した紙面をして、見開きでこう、ページによって作品が切れるのではなくて、見開いたページで、図版が大きく見えるという、そういう資料の体裁の工夫があって、子どもたちにとっては非常にインパクトのある紙面構成がされていて、そういうところが他社2社よりは、かなり優れている点かなというふうに感じています。また、他社に先立ってユニバーサルデザイン化も進めているということもありません。また、ユニバーサルデザイン監修というふうなところも、他社に先んじて取り組んでおられて、視覚支援とか、文字のフォント、そういったところの活用の仕方も、子どもたちに優しい教科書紙面になっているというふうに感じます。簡単ですけど、以上です。

会長：はい。3社についての調査報告をいただきました。委員の皆さんからご質問或いはご意見、あればお願いいたします。

美術の教科書は先ほど言われた資料が、大判の方が鮮明で、見やすくインパクトもあってということで、効果があると思うんですけど、持ち運びという点では、大きな教科書ですから、その辺どうなんですか、教科書と直接関係ない話ですけど。

調査員：ただし、薄いですので、あと、この場所でこういうことを言うのはちょっと語弊はあるかもしれませんが、他の教科と違って、授業のあるなしで、家に帰り持ってくるというような、そういう活用ではなく、基本的には多分学校にロッカー等に常備しておいて、学期末に持って帰り学期初めに持ってくるというような教科書の扱いにどの学校もされていると思うので、大きさはやはり、授業で使うことの方を考えると、大きいということはやっぱり、より良いかなという、前回から大判化がしてたんですけど、その時にはかなりインパクトがあるなど。どうしても、島根県は身近にある美術を感じる施設というのが恵まれていない地理的な特性もあるので、なかなか本物に出会えるチャンスは少ないので、教科書を隅から隅まで見させると、子どもたちにはやっぱりいろいろな驚きもありますので、大きい方が見易さもありますし。

会 長：皆さんいかがですか。

調査員：そういう見開きもすごく充実しているの、両ページ使って見られるところというのは、これは各社も工夫されていますけれども。

委 員：屏風とかね。

会 長：今の調査報告では、O社が特に優れているという事でしたけれども、どこもデジタルコンテンツと
いいですか、このQRコードから行けるところに、いろんな資料があると思うんですけど。そうい
う充実されているのでも、このO社の方というのは、やはり、優れている点があるんですか。

調査員：全ての会社のQRコードを、前回の調査の時にアクセスしてみたんですけども、数も多いですし、
冊数3冊あるので付加されているQRコードも多いので、そういった意味では、生徒はなかなかか
ぎすことはできませんけど、指導者にとっては非常にありがたいと思っています。文字が省略でき
るので、結局その分、図版が大きくできるってところが、工夫されてるところもある。文字情
報が増えるとどうしても図版が小さくなります。

会 長：ご意見ございませんですか。よろしいですか。

それでは、ありがとうございました。

それでは続いて、教科保健体育についての調査研究報告に移ります。資料は25ページ、26ペー
ジ、4社になります。それでは、報告の方、要点を絞ってお願いいたします。

保健体育

調査員：失礼します。保健体育科の教科書は4社ありました。それぞれの教科書について説明いたします。
まず、どの教科書も、基本的な学習内容が精選された妥当な分量で、小中高での系統的な学習内容
の流れの説明もされたり、他教科リンクが分かる記述もあり、カリキュラムマネジメントの面でも
工夫がなされていました。また、保健体育の授業の受け方や教科書の使い方、やり方ということが説
明されていて、1時間の事業内容の見開きが2ページにまとめられておりました。重要語句が誘示
され、授業のキーワードとして示されていました。インターネット等の利用についても工夫されて
いて、そういった面では、使いやすいかなというふうな印象を持ちました。使用する教師、生徒を
両面からよく考えているなということでした。

これからは各会社の特徴的なところなんですけど、まず、A社につきましては、教科書は全体的に余
白部分がちょっと広めに、落ち着いた感じで見易くなっていました。1時間の授業の流れも、見つ
ける、課題の解決、広げるの表記があって、6ページ等にもありますけど、生徒にも見通しが持ち
やすい工夫がなされております。また教科外や他教科とのリンクかというのが分かり易く表記され
ています。先ほど申しましたが、カリキュラムマネジメントにおいても分かり易い対応がされてい
ると思えました。キャラクターが効果的に使用されていて、生徒の興味関心を高められています。
10ページ等にもそれが出ております。章の初めの偉人紹介等があるんですけど、そこにおきまし
ても、特に49ページには、金栗四三、韋駄天でありましたけど、そういった近い話題の登場人物
が使ってあったといったようなところでも、生徒の方に、分かり易い工夫がなされているなとい
うことで優れた教科書であるなというふうに思いました。

B社につきましては、4ページにありますけど、1単元の授業に使うページの左側が文章表記、右側
が資料関係とはっきりと分かれており、どの授業でもそういうふうに記されています。文書を簡略
的にまとめられていますので、短いという面から生徒に考える、調べる意欲を感じさせるという点
が感じられます。逆に言えば教師サイドの資料補足や説明が多少必要になるかなというふうに思
います。学習内容の関連リンクもこれも分かり易く工夫されていました。口絵やトピックス、左側
のところにとピックスというのがありますが、それからミニ知識というのが下の方にありますが、
こういったところで生徒の興味関心を引き出す工夫があり優れた教科書かなというふうに感じま
した。

次、3冊目ですが、K社に移ります。K社は非常に丁寧に単元が構成されておりまして、保健の時間は4年間で大体48時間配分されてはありますが、その授業すべての時間内容が含まれて準備されています。教科書の使い方の説明が実際の教科書ページの説明、分かり易くなっています。口絵の9、1ページ、示されていますが、ここはとか、Aとただけでなくて実際のページで示されているので、一番最初の説明がし易いかなというふうに感じました。事例やコラムについても興味関心を高めるものを取り上げてあります。また、5ページにあります、単元の最初、写真のところ吹き出しがこう示してあって、このためデータにどう影響するのかという、見通しを持ちやすい工夫がされているなど、感じました。各章のまとめのところにも、26ページ、27ページですけど、新学習指導要領の評価項目が、今までと多少変わりますが、知識技能、思考判断、主体的な取り組みというふうになります、知識技能、思考判断といったところ多少分けてあるところから、評価の方が教師としても、これを使えばし易いかなと思いました。そういった面で優れた教科書かなと思いました。

最後に、P社ですけど、P社は告知の色分けインデックスが閉じてパッとこう見たところにもありまして、それから、具体的に学年だけではなくて、章、そういったところにも細かくあるので、そういった意味では、何色のところだよというような形で示しやすいかなと思いました。それから、内容においては、16ページの方へとか、いろんなところがありますけど、キャラクターの吹き出しや、下の方には情報サプリーというので、これも興味関心を高め、そして、保健体育ですので、性についての話もします。その面では、性の多様性といったところで、43ページにはLGBTについての表記もきちんと出ています。他社では、A社が言葉を多く使われて、性の多様性については書いてありましたが、ここでは性の多様性についての説明もあって、こういうところで教科の特性、現在の状況に合っているなというふうに思いました。それから今、雨が降ったりとしてますが、自然災害の写真も豊富で、116ページにありますけど、これらも意識しやすいかなというふうに思いました。章末のところ、先ほど言いましたが新学習指導要領の評価に適した形で問題が作ってあります。それから、見た教科書の中では至る所で記入できるという面では使いやすいかなと感じました。A社と同様にP社は、保健の授業が先ほどは、K社は48時間すべてきちんとありましたが、35時間程度計画されているということで、授業を行うところでは、より深めたいというときには、時間を少し多くとって授業をしたり、そういう面では、色んな取り組みがし易いというところで優れている、配慮してあるというふうに感じました。ページ数は4社の中で一番多くて200ページぐらいありますが、その他180、190ぐらいで大きな差はないので、厚さとか重さとかそういったところも、大きく気にならないところなので、生徒たちの状況に適した、非常に優れた教科書であるというふうに見ました。以上です。

会長：はい。ありがとうございました。

P社が非常に優れているという結果になっておりますけど、2番目というのは、どれというふうにご考えておられますか

調査員：はい。これは、A社です。

やはり1時間の授業の流れが、見つけるとか、課題の解決から、さらには広げるというような形で、子どもたちにも、或いはこういうふうになっているかなという、分かり易くしてあるかなと思えます。以上でございます。

会長：それでは4社について、報告いただきましたけれども、皆さんから、ご質問、ご意見あればお願いいたします。

委員：他の教科書でも、教師の自由度を増していく教科書についてありまして、それについては評価がちょっと異なったので、指導力に優れている教師にとっては、自由度がある教科書というのは、自分の工夫とか経験とかを生かして、このところは5時間だけど8時間にしようというような、できるけれども、そういう教員だけじゃなくて、新しく新採の教員だとか、そういう人にとっては、なかなかその自由度が高いがゆえに、自由度が増した部分がなかなか充実して使えないとか、だから、やっぱり、みんなが押しなべて、一定レベルの授業をするためには、その自由度はある程度抑えて

あった方がいいんじゃないかという教科の教科研究調査委員の方もいらっしやいましたけども、それは教科の特性がありますですか。

調査員：調べ学習とか、そういうことも今はやっておりますので、そういったような、多少ゆとりの時間は、また多いかなというふうに思いますので、今回教科書で設定という形になっていますが、保健体育の場合には、今使っている教科書とかノートを示してありまして、そのことも大分授業では使えますので、今回、他社と、もっとあると思うんですけど、それが見えなくて残念でありましたが、そういったものも合わせますと、時間的にはそういった余裕あった方が、使い勝手がよいかと話しておりました。

会長：他にありませんか。

今日的課題についてはさっき報告いただいたところ、性的マイノリティのところですね、本当に取り上げ方が違うなっていうのはあって、このP社の扱い方っていうのはこの4社の中でも、やっぱりしっかり、話題を取り上げてるかっていうふうに思いましたね。かなり会社によって、課題のとらえ方、違いますね。

調査員：自然災害の写真についても、大きく取り上げたりとか、少しであるとか、各社の違いがありました。そういったところ、一概に言えませんけど。

会長：他よろしいですか。それでは、お世話になりました。ありがとうございました。

それでは、引き続きまして、教科技術・家庭、種目技術について調査報告をいただきます。資料は17ページ、18ページの3社となります。それでは、報告をよろしく願います。

技術

調査員：はい。それでは技術家庭科の技術分野ですけれども、以前とはちょっと雰囲気も変わってきまして、四つの内容がございまして、材料と加工、生物育成、それからエネルギー変換とプログラム制度、そういう四つの内容があります。それぞれの内容について、基礎基本の知識技能を身につけて、その上で、問題解決を行う。身の回りの中で問題を探して、その中から、自分で解決しながら、新しい技術を見ながら解決をしていくというような学習が、今回の学習指導要領の改訂で中心となりました。従って、問題解決という視点、それからもう一つ新しい技術という視点が重要ではないかということで、教科書を見ていきました。それではまず、問題解決についてですけれども、教科書というとA社は、そこに書いてありますが、最初の2から17ページのところになるんですけども、ずっと問題解決についてのプロセスとか、そういった流れが、記載してあります。

委員：全員が教科書を持っているわけではないので、ページ数ではなくて、こう書いてありますという言うように説明をお願いしますか。

調査員：はい。分かりました。それでは、A社の方は問題解決のサイクルが非常に分かり易いように、巻頭のところに、かなりのページを割いてありますので、問題解決の仕組みについて、しっかり考えることができる。その上で授業に取り組むことができるというところが良さでございまして、C社につきましては、それについては、あんまり上げてないというところがちょっと問題であるというふうに思います。

D社につきましても、1ページから19ページと、これも問題解決のプロセスが、きちんと示してあるということで、A社とD社については、新学習指導要領に則した教科書であると、いうふうに見ております。あと、その問題解決に至るまでの基本的な知識技能を身につける部分ですけれども、どちらかという教科書で学ぶのではなくて教科書を使って、学んでいくっていうところが大きい意味がありますので、情報量が多いものが非常に使いやすい教科書になるということになります。従って、A社の方が、情報量が非常に多いですので、様々な知識や技能を幅広く身につけることができるという意味では、A社の方が優れているというふうに判断しました。

C社、D社につきましては、余白も取りながら、見易さはあるんですけども、やはり情報量がちょっと足りないというふうに思います。

それと最後に、新しい技術、日常生活にある様々な新しい技術と学んだことをつなげていく、これからの生活に関心、意欲を持ちながら、生活をよりよい方向に持っていくような学習、その内容については、やはりA社の方が非常に豊富である、内容が豊富になっております。

C社も比較的多いんですけども、どちらかというとならA社の方が、様々な新しい技術が、いろいろな方向から書いてあるというところなんです。C社についてはちょっと例示が少ないということになります。総合的に見ますと、その問題解決の学習のプロセスであるとか、新しい技術と生活の繋がりであるとか、ということを経験的に加味すると、A社の方が特に優れているというふうに判断いたしました。

C社の方が、B社の方は、かなりそれに近いではありますけれども、ちょっと内容量が少ないかなど。C社にあってはですね、新学習指導要領に沿った内容と、少しかけ離れている部分があります。従ってA社の方が優れているというふうに判断いたしました。以上でございます。

会長：はい、ありがとうございました。

それでは、報告いただきましたけれども、委員の皆さんからご質問、ご意見があればお願いいたします。

委員：制御について言えば、小学校でもプログラミングとすることで、算数とか理科で学習をするわけなんです。そういう子どもたちが中学校へ入って、特にそのプログラミングで言えば技術家庭科が中心になるのかなというふうに思いますけれども、小学校で学んだことを生かしたような教科書であるかどうかという点からの評価はどうですか。

調査員：そういう意味でもやっぱりA社の方が、いろいろな意味で詳しく載っているというふうに判断しております。小学校でどこまでやってくるかっていうところが大きな問題でして、だけれども多少フローチャートから少しずつ変わっていきながら、より高度なものに近づいている。基本的には制御の方に中心がありますので、何か物を動かすとか、より最適な状況で動かすみたいなのところに視点がいてますので、問題は、その教材面の問題が結構大きくて、それに適した教材が必要になってくる。そういった意味では、各市町村の方の補助が必要ではないかと、より深いものとすればですね、そういうふうな状況です。

委員：はい。

会長：他いかがでしょうか。

委員：C社は、別冊がついているんですよね。

調査員：そうです。

委員：別冊がついて、その、会社の売りかなと思っているので、そういう面の技術をまとめた部分について、先ほど一番と言われたA社については、その辺はどうですか、同じような感じだと思うので。

調査員：それですね、C社のハンドブックっていうのは、どちらかと基礎、基本の定着のために作られているものなので、新学習指導要領の目標とする、問題解決的な学習っていうところから、ちょっと離れてるところは残念であるというふうに思います。他の会社も、逆にこのコラムとか、そういった形で新しい技術との繋がりとか、今こんなふうに頑張ってる会社があるよっていうような紹介が出してあったりしますので、そういう意味では、他の会社の方が、ハンドブックありますけれども、優れているんじゃないかというふうに思います。

委員：はい、ありがとうございます。

会 長：他にいかがでしょうか。よろしいですか。

各委員：はい。

会 長：それでは技術の方の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。
それでは前半戦はここまででございますので、大変スムーズに進んでおりまして、20分まで休憩をさせていただきますので、一旦解散とします。

～ 休 憩 ～

会 長：それでは再開をしたいと思います。
教科技術家庭科、種目家庭科についての研究調査報告を伺いたいと思います。資料は29ページ30ページの3社でございます。それでは、調査報告の方よろしく願いいたします。

家 庭

調査員：それでは家庭科についてよろしくお願ひします。先ほどお話のありました資料の29ページ、30ページに従ってお話をさしていただきたいと思いますが、家庭科については、新学習指導要領では、今の生活に結びついているものであって、そして将来に渡って、年を取った時にどういふ生活をしていくかということに将来についてもこれから技能知識を身につけていくというのが非常に主眼になっているところでして、その点からいろいろ検討させていただきました。

まず1番目の分量、程度等ですけれども、A社の方は、そこにも書いてありますけれども、順番は学習指導要領とは違っています。他のは全てABCになってます。C社とD社は、ABCとなっておりますが、A社だけは、BCAの順で教科書並んでますので、少しちょっと変わったタイプになってますが、実際の授業を行うあたりでは、何の差し支えもありません。肝心なのは中身でして、中身の方を見ていきますと、分量的には、A社の方はかなりボリュームがありますし、C社、D社の方は少しボリュームは少なくなってますが、A社の方が、中学生のレベルにはあっているなど、また、C社、B社の方が少し易しい内容になっているなど、A社の方が、やはり指導するにあたっては中学生が最低限身につけて欲しい以上に応用的なもの、先ほど言いましたけれども、より生活に結びついて、また将来にわたって、そういうのが身につけて、知識として担保されていくというような内容のとことはしっかり書かれているというふうに読ませていただきました。

続いて、2番目の方ですけれども、やはり先ほども話をしましたが、A社の方が、非常に身近で、中学生の発達段階に応じたような、資料が非常に多かったように思います。やや、C社、B社は、中学生の発達段階だと少し簡易な易しい内容になっていたのではないかと考えています。

3番目のところですが興味関心、配慮ですが、ここはやはり大きく違っていたんではないかと思ひます。その例、皆さん教科書はありますか。

会 長：ないですので、内容で説明してください。

調査員：はい。私は、教科書を見ながらなんですけれども、128ページ、129ページのところに、作業の手順というものが書いてありますけれども、非常に、大きく分かり易く書いてあります。しかも作業の方が、右にずっと見開き、こう並んでるので、他の方は、こう見開きになって閉じになっていたりですね、この中に書いてあったりして、この見開きでこう目線が行くように分かり易く配置がされていて、ここが非常に大きな違いじゃないかなというふうに思っております。それから、その作業の中に、A社だけは、いわゆる失敗が書いてあります。他は、全て失敗例は書いてありません。あくまでもこういうのは、こういう作業をすれば、準備はうまくいくということは書いてありますが、A社だけは、失敗例も書いてあるという点で、逆に、子どもたちにこういう点で配慮して作業をして、製作をしていけばいいんだよってということが分かり易いのではないかとこのように捉えさせていただきます。

それから4番目の方に行きますと、地元と家庭科ではやはり生活に密着したものではないといけないということで、Aの方は、91ページのところでは、シジミが載っています。それから、C社、D社これは同じでしたけれども、出雲市の築地松が載っています。地域性がそれぞれにあったんではないかなと思っています。

それから、5番目のところですけども、やはり調理実習において、もうちょっと分かり易く、69ページになりますが、こういうふうに、いろんな調理例が載って、この量がやはり非常に多くてしかもこれは大体、普段の中学生だったり、やっぱりもう少し大きくなって、自立して生活していけるようなところですね、分かり易いような品数がたくさん載っていました。他の教科書にも載ってはいますけれども、生活からすると、若干、離れたような資料の方が多かったんじゃないかなっていうふうに思っております。

それから、6番目のところですけども、それぞれが二次元バーコードを使ったりしていましたが、C社の方は、12ページ、13ページですけども、よく子どもたちが目にするようなアニメのキャラクターを使って、これもサザエさんであったりちびまる子ちゃんだったり、非常に生活に密着したような家とかを話題としてとらえているようなアニメの題材になってますけども、こういうもので家族を考えて行くというようなことで、身近なものとしては取り上げられて、この点は工夫をされているんじゃないか、と思いました。それからそれぞれに、巻末のところへ必ず振り返り、メモ等があってですね、振り返りはすべてあったように思います。

最後に総括をさせていただきますけども、やはりA社の方が、内容、書いてあるレベル、それと資料の提示、資料の多さ、写真の多さ、それから途中でも申しましたように、失敗例であったり、色んな例、それからその配置が非常に整然としていて、A社の方が一番特に優れていたというふうに判断させていただきました。

続いて、D社の方が2番目には、これも、思考判断的な内容は非常によく書かれていましたし、生徒が主体的に課題が設定できるような配慮もされていて、優れた教科書ではなかないと判断させていただきました。

C社がやはり少し内容が、程度が簡単ですし、写真であったり資料の配置が、少し分かりづらかったりして、少し使うには、難しい面があるのではないかなというふうに判断させていただきました。以上です。

会 長：はい。ありがとうございました。

それでは、先ほどの調査報告に対してのご質問、ご意見があれば、お聞かせください。

今後ですね、賢い消費者といえますでしょうか、将来に渡っての持続可能な社会を作っていく一人であるということから、おそらく最終単元でそうしたものは使われてると思うんですけども、SDGsに関することとかですね、それらについての比較というのは何かされてますか。

調査員：そうですね、最初のところで将来にわたって、自分の生き立ちからずっと追ってあります。それらはすべてどの教科書も同じような感じで扱われてたんじゃないかなというふうに判断させていただきました。

会 長：よろしいですか。

委 員：私も、今のA社の方、アイロンがけがずっと書いてあって、それから順番は十分に分かりませんが、流れがあって、その見開きが順番になっていたり。

調査員：そうですね、A社の一番の特徴はやっぱりこの見開きで横に作業の順番が書いて、分かり易い。やっぱり技術家庭科、作業、制作っていうのは大事なところを教えますので、それが分かり易く表記してあるんじゃないかと思っています。

委 員：分かりました。

会 長：はい。それでは以上で家庭科の調査報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。

それでは引き続きまして、外国語の調査研究報告書につきまして、資料は31ページから33ページの、6社でございます。教科書会社が多いですので、それぞれ特徴を簡潔にお話しいただいて、報告いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

外国語

調査員：失礼します。最初にですけれども、外国語科全般のことについて少しお話ししたいと思います。学習指導要領の解説なんですけれども、改訂の趣旨の中に課題が挙げられています。一つが、学校種間の接続が不十分であること、それから二つ目が話すこと、書くことの英語を用いた活動、言語活動が適切に行われていないこと。三つ目が、やりとり、即興性を意識した言語活動が不十分であること。四つ目が、複数の領域、英語でいうと四技能です。聞く事、話すこと、読むこと、書くことを統合した言語活動が不十分であるということが挙げられています。これを受けて、小学校の言語活動を、中学校の授業でも取り扱い、小中の連携を強めること。それから今まで先ほど言いました四技能でしたけど、四技能を五領域に分けまして、聞くこと、話すことのやりとり、話すことの発表、読むこと、書くことに変更し、新たに、話すことにやりとりの領域を設定し、やりとり、即興性を意識した対話的な言語活動の充実を図ることになりました。あわせて、各領域の言語活動や、複数の領域を統合した言語活動を充実させるため、取り扱う英単語の数ですけれども、今までは1200語でした。それが今回ですけれども、小学校で触れた、600から700語に加え、新たに、1200が1600から1800語程度の増加をしています。このような課題や変更点を考え、各社が教科用図書を作成しています。以上のような状況で、どの教科書も現在使っている教科書に比べ、分量やページ数が増えています。また、小中学校の連携接続の面で、どの教科書も1年生の最初を中心に、小学校の復習や小学校の言語活動が組み込まれています。あわせて、資料には書いていませんが、どの教科書も二次コードやQRコードを使って、家庭でも単語や本文の英語を聞くことができるように工夫されていました。

それでは統括を中心に、各教科書の長所を報告します。資料をご覧ください。

まず、A社ですけれども、A社は、四技能、五領域を統合的に扱った言語活動に、丁寧な指示や例があり、生徒が取り組みやすくなるように工夫されていました。小学校との連携接続では、各ページの新しい単語、新出語句の下に、小学校の学習で触れた単語、マークがあるんですけど、マークをつけて掲載されるとともに、巻末には、小学校で学んだ一覧表が示されていました。それに加え、A社は、高校との英語学習の目標の繋がりを示しており、小中高の学びを意識した教科書になっていました。また、教科の知識を用いて取り組む単元も設定されていて、教科横断的な学びができるよう工夫されていました。A社のみですが、教科書のサイズがA3判で、他社と比べて大きく、イラストや本分の練習など、見やすく生徒にとっても使いやすいもので、全般にわたり、特に優れていました。

次に、D社です。D社は幅広い分野のテーマを設定し、各単元の最初に、新出表現の使用場面を2コマ漫画でわかりやすくまとめ、生徒が興味を持って学習できるように配慮されていました。また、単元の終わりには、本文の内容を、自分の言葉でもう一度話をする、再話するRetellが設定されていて、生徒の発信力向上と既習事項の定着を促す工夫がされていました。複数の領域を統合した言語活動では、4ページにわたって、指示や例が掲載されていました。各単元の、本文ページ下にある、音読練習回数のチェック欄は、自分の取り組みを理解し、主体的に学習に取り組めるように配慮されて、全般に優れていたと思います。

資料2枚目をお願いします。続いて、F社です。F社は、幅広いテーマの本文や世界の名作、世界の偉人が残したメッセージ、ほかには英語の学習法や、自分で学習を進めるためのアドバイスなどが掲載されていて、生徒が興味を持って学習できるように工夫されていました。また、複数の領域を統合した言語活動では、特に聞き手に伝わる効果的な読み方、朗読や、スピーチの方法など、発信力が伸びることに力を入れ、工夫された教科書でした。

次に、G社です。G社は海外だけでなく、日本の都道府県が複数取り上げられていて、生徒が身近な地域社会問題について、興味を持って学習できるように配慮されていました。即興で話すための手助けとなる活動、場面や目的に応じた技能を試す活動や、よりよく会話をするためのポイントを探る活動など、実際に英語が使えるようになるための工夫がされていました。複数の領域を統合し

た言語活動では、プレゼンテーションの活動が設定されている教科書でした。

資料の3ページ目をご覧ください。続いて、I社です。I社は、即興でやりとりする際に使える表現がまとめられた。Let's Talkが各学年で掲載されていて、授業の中で行う帯活動というのがあるんです。毎時間繰り返す活動ですけど、帯活動等で、毎時間繰り返し活用できるようになっていました。また、各単元の最初に、扉という名前で、話を予測したり、大まかな内容を掴んだりするために、音声から入り、文字に移行する構成になっており、スムーズな流れで学習が取り組めるように配慮されていました。構成としてですが、各単元のゴールを積み重ねていき、複数の領域を統合した言語活動に繋がる流れもわかりやすく、工夫されていました。社会的な話題に加え、学校生活や日常の話題も多く含まれていて、生徒が興味を持って学習できるようにしてあり、全般に優れていました。

最後に、L社です。L社は、要所にターゲット、その単元で大切となる基本文、ターゲットと呼びます。ターゲットのまとめがあり、生徒が自らの学習を振り返ることができるよう配慮されていました。また、単元末に、モア・インフォメーションとして、内容の補足情報や、追加情報を紹介し、生徒の興味関心が高まるように工夫されていました。題材としては、アニメや将来の夢、身近な地域の活動や地域の活性化、国際社会のことなど、幅広く取り上げられていて、生徒が多角的な物の見方ができるように工夫されていた教科書でした。

以上6社について、3名の調査員で研究調査を行いました。A社の教科書が出雲地区の生徒が使うのにふさわしいと判断しました。先ほど述べた理由に加えて、現在、小学校英語で使われている教科書が、A社のものであること。また、中学校も、現在、A社の教科書を使っていて、大きさは変わりますが、生徒にとっても、指導者にとっても、慣れ親しんでいて使いやすいこと。小中だけではなく、中高の学びを意識して作成されていること。生徒にとっての見やすさ、活動のしやすさなど、総合的に判断し、外国語科研究調査会では、A社の教科書を推薦いたします。以上で終わります。

会長：はい、ありがとうございました。先ほど6社についての調査報告ありましたが、皆さんからご質問、ご意見ありませんでしょうか。

委員：最後に言われましたけれども、小学校で使ってる教科書を中学校ということでの連続性ということも、メリットの一つとして挙げられました。国語とか算数とか理科とか社会も、もちろん小学校の教科書と中学校の教科書会社が違ってる、ところもいくつかあるんですけど、英語というのは教科の歴史がちょっと浅いですよね。

調査員：はい。

委員：そうすると小学校でやってることと中学校のやってることが、一つの教科書会社だと、連携というか、一貫して、教科書編集ができていいのかなというふうに思います。そうするともう小学校で決定すると、中学校が必然的に決まるということになるのですが、歴史が浅いという点から、今回は致し方ないのかなと思います。けれども、次の改訂、次の改訂にいけば、小学校の英語の経験値も増えてきて、独特の教科書会社、独特の考え方も尊重してもいいのかなというふうに思いますが、現段階ではやっぱり小中同じ教科書会社が大事だということの判断をされたわけですね。

調査員：はい。今、言ってくださった通りなんですけれども、それに加えてですけど、来年度から、評価の仕方が変わってくるってことがあります。今までは4観点で評価していたものが、3観点に変わるんです。そのこと自体は指導者のことかもしれませんけれど、もう少し評価の、これは英語だけじゃないんですけど、評価の仕方が変わるってことで、少し学校の教員も、そのことについて、やはり学ぶことも多くなるんじゃないかなというふうなことも、少し会議の中で話になって、評価も頑張っていけないといけないので、これまでの教科書も変わるってことで、今回は、生徒にとってもですけど、指導者にとっても少し慣れ親しんだ教科書でやっていき、なおかつ評価のことを学びながら、先ほど言うていただきましたけど、何時までも連続性、何時までもそれが通るのではないと思うんですけども、そういう事情も話の中に取り上げられました。

会 長：島根県というか、出雲地区の課題というのは県の課題でもあるんでしょうけど、どちらかといえば小学校では話を聞くが中心の教科であって、中学校に入り、読むまたは書いて表現をするみたいなことも、当然力を入れていかなければいけないっていうところに、今の学力調査からすると少し課題が見えるところがあるんですけど。そういう読む、書くみたいなどころでの指導としての教科書の構成においてはどうなんですかね。やはりA社というのが、優れてるっていうのはどういうところがあるんでしょうか。

調査員：そうですね。多くの教科書もそうでしたけどA社が特に推しているところっていうのが、小学校で今言われましたけれど、小学校で学んできたものを次に生かすというところを考えたときに、読むこととか書くことはですね教科書の中にも書き込んだりするところもできますし、それから先ほど言いました、統合的な活動として、読む書くということを小学校でもできたものを生かして、さらに発展させてっていいですか、そういうところでは優れていました。

会 長：最後に、この資料には触れてないんですけど、デジタルコンテンツの充実度っていうのはこの6社の中でどうなんですか。

調査員：そうですね、デジタルを一個一個実際に開けて見たわけじゃないのが正直なところなんですけれども、どの教科書にも広がるコードっていうのがあって、家庭では使えるのではないかなと予測できました。

会 長：私は全部見たんですけど、A社が一番充実していたのかなと思って見ました。この大判ですねA3判というのが異常に大きいので、なぜこの大きさかなと思いましたけど、それは言っても仕方ない。

調査員：小学校の方も同じサイズだと聞きまして、小学部の児童の机はさらに小さいのかなと思ったり、机の大きさがありますよね。少し心配しましたがけど、開いてノートを開いても、ぎりぎりいけるのかなとか思ったりもしました。

会 長：分かりました。

委 員：私もちょっと引っかかって、上へ行けば段々小さくなるのが普通かなと思って。あんなに大きいと、理由として、大きさのことも理由にされたんですけども、その大きさによって、見易いというものもあるけど、他に大きくなっての良さっていうのは何なんですかね。

調査員：はい。委員の話の中なんですけれど、いろいろ配慮が必要な子どもがいます。ユニバーサルデザインといいますか、写真なんかもその分大きくなっていたり、表とかグラフとか資料も大きくなっていて資料も見やく生徒にとっても、分かり易いのかなというふうなことを感じています。

委 員：まあ確かにその部分もあるかなと思うんですけども、内容的に、生徒が努力しなければいけないんですけども、次高校の方へ行ったときに、教科書が大きくなるかもしれないけど、そこにやっぱり対応する子どもを育てていかなくちゃいけないというのがあって、そのバランスだと思うんですけども。まあ、小学校の時は大きくてもいいかもしれないけど、大きいければ全ていいというものどうなのかな、理由の一つに上がったので。

会 長：中学生が持ち運ぶ分には大丈夫の大きさですよ。かばんの中にも。

調査員：中学生ですので、ランドセルみたいなものはないんですけど、ただどの教科書よりも、現在ではA3の教科書ってありませんので、多分カバンに入らない大きさっていうことはないと思います。

会 長：はい。他はいかがでしょうか。

委員：質問ですが、A社ですが、高等学校との目標の繋がりがっているのは、こういったところから読み取れるのでしょうか。

調査員：英語はですね、こういったことができるようになるっていうCan Doリストっていうのがあって、それは1年生の時には、上の方に小学校でこんなこと学んで、1年生でこんなこと学んで、2年3年で学んでということが書いてあると思います。3年生の教科書には、今度は一番下に高校での英語の学びっていうのがあって、これが先ほどお話した英語教育の中高の連続性というか、中学校でこういうことでできるものを高校ではこうだよっていうふうな、3年生の教科書に高校での目標が載ってます。そこを、小中高の連続性といった言葉を使って、説明させていただきました。

委員：はい。

会長：よろしいですか。

委員：うちの英語担当指導主事が中学校の英語の授業を見ての報告書に、小学校ではスマールトークをしっかりやってるので、中学校でも、もう少しスマールトークを入れてくださいっていうような内容が多くあります。そういうのは、教科書ではなくて、教えるときに教師が意識してスマールトークの時間を持つという意味ですか。それとも教科書の中に、小学校との連続性を意識してそういうのが入ってるんですか。

調査員：教科書会社によっては、スマールトークに使えるような何かヒントになるような吹き出しがあったりしているものもありました。

委員：そういう意味ではどうなんですか、A社、D社というのは。

調査員：A社の方も、よくよく見ると、話題がいろいろありますので、それについてのスマールトークをやってみようとかいうふうに、振り返りを使いながら、広げていくことができると思います。

委員：はい。わかりました。

委員：最後ちょっといいですか。英語で特に進めるのがA社で、次に、D社とI社なんですが、これはどっちが先ですか、同じぐらいですか。

調査員：D社、I社なんですけれども、D社の方が少し面白いというか、先ほどの繰り返しで申し訳ありませんけど、2コマ漫画っていうふうなところが、並べて面白いねっていう話になりました。それから、高校の方でよく使われるReTellっていう、すべての単元で少し頑張って英語で、自分の言葉でしゃべってみるっていう、なかなか中学校では少ないんですけど、これをやってるなということ、面白くなってことで、D社の方です。

会長：D社ですね。

調査員：D社です。

会長：では、A社、D社の順ということでよろしいですね。それではありがとうございました。それでは、特別の教科道徳の調査研究報告を、お願いをしたいと思います。資料は34ページから36ページまでの6社でございます。時間も限られておりますので、それぞれについての特徴なり、を端的に紹介いただいて、報告をしてください。よろしくお願いいたします。

特別の教科道徳

調査員：それでは、調査の観点は、お手元の資料にございますとおり5項目ですが、昨年度から中学校も道徳の教科化が始まりましたので、5項目に加えまして、新しい道徳科の特性である3つの内容を加味して調査をいたしました。その3つの内容とは、一つ目に道徳が教科化された背景として、深刻ないじめの本質的な問題に向き合うこと。それから、グローバル化、情報化の急速な進展、持続可能な社会への関わりなど、今日的な課題と向き合い、正解のない、困難な時代を生きるための、理論と思考を深める力を育む必要があるという背景を踏まえているかどうかという観点があります。2つ目に、新しい道徳科の授業において、自己をじっくりと見つめる自我関与がポイントとして挙げられ、教材の中の事柄が、自分ごととして考えられるものであるかかかということ、観点としました。3つ目に、新学習指導要領にあります、主体的、対話的で、深い学びとなるためのキーワード、考え議論する道徳を行うことで、生徒たちが多面的多角的に考えられるものになっているかどうか、という観点を加えて、調査をさせていただきました。また、本地域でもいじめの問題が、外国籍の方々など、多様な他者との共生、また、地域社会への参画など、地域の実態や課題へも適合しているかどうかという観点も踏まえながら、調査研究をさせていただきました。

それでは、資料の説明をさせていただきます。それぞれの会社について、様々な工夫、それから利点がありますので、先ほど言われましたように特徴的なところのみ挙げさせていただきます。

まず、A社です。A社は、3の興味関心への配慮を見ていただきますと、下の段に、全学年に役割演技や体験的な学習を通して考えを深められるよう、アクションというものが設定されており、ただ読み物を読んで考えたわけではなく、様々な手法が凝らされているということであります。また、4番の地域の実態と先ほど言いましたように、いじめに関する物語や地名サミットなど、現実的な問題について重点的に考えられる構成となっております。総括です。多様な資料がございまして、また、各教材、それぞれが後に考えようと、自分を見つめようというものがありまして、教材の内容と、それから実生活の両面から、思考を深められるという工夫がありまして、そこが優れている、ということ、調査員とともに確認いたしました。

では、次のG社です。G社は、3の興味関心のところにありますように、例えば3年生の教材では、ハゲワシと少女という写真がございまして、大変インパクトのある、飢餓の問題です。インパクトのある写真が掲載されており、生徒の興味関心を高めるような工夫がみられました。総括のところの下のところ、書いてございますが、その他には、各教材末に学びの道しるべというのがありまして、そのあとに、三つの問いが示されており、教材の内容と、それから少しずつスモールステップで自分のことも考えられるような、発問、問いかけがございました。

I社です。I社は、1の内容、程度、分量というところで、生徒にとって読みやすく、理解しやすい資料が多いということがありました。特に1年生は小学校から上がってすぐですので、字の大きさ等変えてあったりということが、確認できました。それから、4番の、教科の特性、地域の実態ですけれども、1年生のところ、異文化の人々とともに生きるというのがあり、具体的に自分ごととして考えやすい工夫がしてありました。また、全学年に人と人との関係づくりが設定してあり、他者によりよく関わるというスキルを学ぶことができるという工夫がされておりました。総括です。総括の2番目に挙げておりますが、各教材それぞれの後に、見方を変えてという項目がありまして、そこが多面的多角的に考えられるように工夫されているところが優れているというふうに結論付けました。

では、O社です。O社では、3の興味、生徒に対する興味、関心への配慮というところで、2番目のOですが、項目が命について、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応、いじめの問題など、恒久的なテーマから、現代的な課題など多様な資料が載せてあり、生徒の興味関心を引く工夫がみられました。読み物資料というのが大半を占めていた中で、様々な考えであるとか、シリアルとか、様々な新聞であるとか、様々なものを組み合わせ、提示してあるということも、興味関心をひくのではないかという意見が出ました。4番です。複数の教材等からも組み合わせたり、いじめと向き合うというものが複数配置されており、差別をなくし、平等、思いやりの精神を培えるよう集中的また継続的に考えられるように工夫されておりました。また、話し合い活動のページが複数あり、生徒同士が考え、議論する道徳のイメージが湧きやすく、取り組みやすいものとなっております。また、その他のところに挙げておりますが、それに付随する道徳ノートに友達の意見を書く

欄がございまして、他者の意見を参考にしながら、多面的、多角的に考えられるようになっておりました。最初に述べましたように、本地域の課題としてのいじめであるとか、多様な他者と生きること、それから、地域社会に参画をしていく、その素地を育てるための、話し合い活動の工夫がこの教科書には随所に見られました。また、総括の下のところにありますが、各教材の後にある自分にプラスワンという項目があるんですが、それぞれの価値項目について、自分ごととして考えられるように工夫されており、その点が特に優れているという結論にいたしました。

では、P社です。P社は、1の内容程度分量のところですけども、2番目の○ですが、全体的に読み応えのある資料は多いのですが、逆に言いますと、文章での資料が多くて、文書の読解が苦手な生徒等については、知識や、補足の説明が必要となるものも、いくつかございました。それから、4のところですけども、地域の実態や課題への適合というところで、2番目に、生命に関わる内容の教材に重きが置かれています。命のマークがついており生命について多面的にとらえられ、いじめの防止にもつながるようになっていました。総括のところですが、各教材末にねらいにせまる問いというのがあったのですが、今の道徳に求められている、自分に対する問いというのが設定されていない教材もあり、ここは教師が考えてするところであるかもしれませんけれども、そういったところが少し少ないかなというところが見受けられました。

では、T社です。T社は、2の題材の選択や構成等のところを見ていただきますと、下の段ですが、いじめ防止、人権尊重に関わる教材が重点課題として複数提示されておりました。配当時間も増えるように設定されておりました。それから、総括ですが、2番目の○ですけども、各教材末に考える話し合うというところがあり、めあてや題材に関わるという問いと、それから、考えを広げて、深める視点というものが示されており、学びを深められるように工夫がされておりました。ただ、中には自分ごととして考えたものではないものも多少ありました。以上で、特徴的なところだけを説明させていただきましたが、このように調査をさせていただきました。以上でございます。

会 長：調査としては、O社が特に優れているということでしたけれども、これを、1番目とするなら、2番目は、A社でしょうか、I社でしょうか。そこらあたりどうですか。

調査員：そこについては、それぞれに特徴がありまして、特にどちらかというので意見が少し分かれました。A社かI社というところでは、ただ、どちらかというところ、A社の方が様々な題材、それから物語だけでなく、新聞やそのまま資料が使われている点では、A社の方がバラエティに富んでいるといえますか、様々な分野に目が行きやすいということがございました。

会 長：はい、ありがとうございます。それでは、6冊についての調査報告でしたけれども、委員の皆さんからご質問、ご意見があればお願いいたします。

委 員：評価ということでは、教師が、道徳が教科になって評価をしなくてはいけなくなった。そこで、確か前回の教科書採択においては、我々も評価という観点から教科書を見た時に、どういうふうに評価するんだろうかみたいところをかなり論点とした記憶があるんですけども、今回教科書を見られるのに、評価という視点での話し合いみたいなことはされたんですか。

調査員：はい、評価の材料となる振り返りをするということですが、どのように自分なりに時間の経過とともに変容していったかとか、そういうことを見て取るために、道徳のノートや記述のためのノートであったりというものが必要になると思うんですが、道徳ノートをその時見たり、教科書の中に、自分の気づきを書く欄があったり、そういうところも比較、評価をしました。特徴としても、少し資料にも書いておりますけれども、単元ごと、教材ごとに振り返りがあるものや、学期ごとに振り返りがあるものがありますけれども、O社では、教科書だけを授業で取り扱うわけではないですけども、教科書ごとにそれぞれ細かい発問とかはなく、大きな枠の中で、自分の学んだことが書けたりとか、友達の意見などを書く欄がありますので、他者とともに考えながら表記をしているということが見て取れるのが、やはりO社の特に優れている点というような話をしました。

委 員：ありがとうございます。

会 長：他はいかがでしょうか。

委 員：私も同じような、O社っていうのはいいかなと思っていますけれども、中途半端にその後ろで学期ごとの振り返りもありますけども、書くところがあって、というよりは一括こうやって、発問を書いてあるわけじゃない、ノートはですね、教科書は載ってますけども、それを教師が変えることもできるし、何ととっても、もう一つは、プラスワンっていうか、そこら辺がA社と似ているところはあるんですけども、発問っていうか質問も多くななくて、あんまり多すぎるとどうかと思うような、こう的を絞るような、自分が振り返るっていうのが大事かなと、まあそういう点について、今言われたO社、I社というのがいいかなと思います。ただ、そのO社については、他の意見を書くところがあるので、そこもいいし、友達の全部が書けるわけじゃないんですけども、その多様な価値というところも考えて、評価の仕方もそれが手助けになるかなというように思いました。全く、言われた優れた点は、やっぱりそのとおりにかなと思います。

会 長：他にございませんか。よろしいですか。

各委員：はい。

会 長：それでは、特別の教科道徳についての調査報告を終わりたいと思います。それでは以上で、調査報告からそれに関する質問意見というのは、終わりにしたいと思っております。この後、休憩をとった後、最初に、午前中に保留としておりました理科についての選定、投票をしていただくことにします。その開票をいたしますので、その間に午後の音楽から道徳までのところの、採択に関わる協議をさせていただいて、開票結果については最後のところで報告をいただくということにしたいと思っております。この投票は多分初めてしますので、その方法については、お手元の資料の会則6ページのところで、11条に書いてございますので、こういうことだということをご理解していただいて、臨んでいただければと思っております。それでは、20分まで休憩にさせていただきますので、いったん解散とします。

～ 休 憩 ～

採択協議

理科投票

会 長：それでは再開をさせていただきたいと思います。休憩前にお伝えいたしましたように、まず、理科の選定について、現在の状況は、会則、協議会規約にあります、第11条の第2項に該当をしておりますので、これから委員の皆さんに、この理科の種目について、A社からL社までの5社発行の教科用図書、調査研究員会の報告では、A社が最も優れているという報告がありましたが、協議の中で、そうではなくて、L社の方がというご意見もございました。従って、この5社の教科用図書の中から、皆様が選定すべきと考える教科用図書に投票を行ってください。過半数ですので、今日、委員さんは7名ですので、4票以上を獲得した教科書があれば、それを選定とさせていただきますし、もし過半数に達しないものばかりであれば、第3項の手続きに移らせていただきますので、まずはお手元に投票用紙がございますが、この四角の中にアルファベットA、B、E、G、Lを一つだけお書きいただいて、あと投票箱を持って回りますので、その中に投函をお願いいたします。よろしいでしょうか。それではお願いします。

～ 投 票 ～

会 長：では皆さん投票いただけたと思いますので、開票の作業はこれから進めますが、その間に、午後説

明を受けました音楽から順に採決協議の方を行って参ります。

音 楽

会 長：まず、資料21ページをご覧ください。音楽については、説明は、一般と器楽等を分けて報告をいただきましたが、採択、教科書の会社としては、1社ということになります。一般、器楽とも、Hの教科書が優れているという報告でございましたが、皆様のお考えはいかがでしょうか。

各委員：異議ないです。

会 長：よろしいでしょうか。では、異議がございませんので、教科音楽につきましては、H社を採択いたします。記録いいですね。

事務局：はい。

美 術

会 長：それでは続いて、美術です。資料は23、24ページでございました。調査報告では、O社が最も優れている。2番目としてはD社ということでしたが、O社とすることについて、皆様のお考えはいかがでしょうか。よろしいですか。

各委員：異議ないです。

会 長：ご異議ございませんので、美術につきましては、O社を採択とさせていただきます。

保健体育

会 長：続いて、保健体育でございます。資料は25ページから26ページです。報告の中では、最も優れている教科書としては、P社、そして、次の候補としては、A社ということでした。P社を採択することについて皆様のお考え方はいかがでしょうか。

各委員：いいです。

会 長：よろしいでしょうか。
異議ございませんので、教科保健体育については、P社を採択することといたします。

技 術

会 長：続きまして、教科、技術家庭、種目、技術でございます。資料は27、28ページでございまして、調査報告では最も優れているものとしては、A社、次点はD社ということでした。A社とすることについて、皆様のお考え方はいかがでしょうか。

各委員：いいです。

会 長：よろしいでしょうか。
では、教科、技術家庭、種目、技術については、A社を採択することといたします。

家 庭

会 長：同じく教科、技術家庭、種目、家庭についてです。資料は29、30ページでございました。報告の中では、A社が最も優れた教科書であるとされ、次点では、D社でございました。A社とすることについて、皆様のご意見はいかがでしょうか。

各委員：結構です。

会 長：いいでしょうか。異議ございませんので、技術家庭、種目、家庭については、A社を採択することといたします。

外国語

会 長：続いて、外国語でございます。資料は31ページから33ページにかけての6社でございました。調査報告からは、最も優れた教科書としては、A社、次点としては、D社でございました。A社とすることについての、皆様のご意見はいかがでしょうか。

各委員：いいです。

会 長：よろしいですか。
では異議ございませんので、外国語については、A社を採択することといたしました。

特別の教科道徳

会 長：続いて、特別の教科道徳でございます。資料は34ページから36ページにかけてその6社でございました。報告の中では、最も優れた教科書として、O社、そして次点としては、二つございましたけれども、どちらかというとならぬA社であるという報告でございましたが、O社とすることについて、皆様のご意見はいかがでしょうか。

各委員：いいです。

会 長：よろしいですか。ではご異議ございませんので、特別の教科道徳については、O社とさせていただきます。

理 科

会 長：では最後に、先ほど投票をいただきました、理科についての開票結果を報告してください。

課 長：投票の結果、A社6票、L社1票でした。

会 長：それでは、投票結果、先ほど報告のあったとおりでございまして、規約に従いまして、過半数を得た教科用図書がA社でございますので、教科理科については、A社を採択とさせていただきます。以上で、今回の採択協議については、すべて終了をさせていただきたいと思っております。事務局の方で、もう一度、報告できますか。

事務局：はい。それでは慎重にご審議いただき、ありがとうございます。本日の各教科種目の採択結果につきまして、もう一度この場でご確認をさせていただきたいと思っております。それではまず、国語でございすけれども、こちらがA社、続きまして、書写が、同じくA社、続きまして、社会の地理でございす。こちらがJ社、それから、社会の地図ですけれども、こちらもJ社。それから、社会の歴史でございす。こちらが、A社。社会の公民、こちらA社。

委 員：ちょっと待ってください、3ページのABCDとさっきの配列が違うんだけれども、3ページで。

これは記号が違いますか。

事務局：これについては、申し訳ございません。こちらの3ページの方が誤りで、こちらの、選定する資料に掲載しているものが正しいものでございます。大変申し訳ございません。

会 長：それでは、数学から続けて下さい。

事務局：はい。続いて、数学でございます。

数学につきまして、A社、それから理科ですけれども、先ほどの投票の結果によりまして、こちら、A社でございます。

それから、午後の方にまいりまして、音楽、こちらがH社、美術が、O社、保健体育がP社、技術につきまして、A社、それから家庭科が、A社、外国語、こちらもA社、それから、特別の教科道徳、こちらが、O社、以上の本日の採択の結果でございます。よろしかったでしょうか。

会 長：それでは、確認させていただきましたので、以上で採択協議の方は終了させていただきます。それでは、私の方の進行は以上かと思しますので、事務局の方へお返しいたします。

その他

課 長：はい。ありがとうございました。

それではレジュメの3、その他について事務局の方から説明させていただきます。

事務局：それでは、その他につきまして、説明をさせていただきます。

お手元の資料、7ページをご覧くださいと思います。

まず、2の括弧2としておりますけれども、本日こうやって、出雲地区採択協議会で採択結果が決まりましたので、これをもちまして、各市町の教育委員会で、8月下旬までのところで、この協議会の採択した教科書に関する意見聴取並びに承認を行っていただきたいと思います。

承認となった場合は、恐れ入りますが、協議会の事務局へご連絡をいただきたいと思います。

事務局につきましては、出雲市教育委員会学校教育課の岩崎の方までお願いをしたいと思います。

次に教育委員会の開催予定を載せております。

出雲市につきましては、8月の25日を予定をしておるところでございますけれども、こちらの来月のところにですね、ご予約がもう決まっておりますら、恐れ入りますが本日のところでお聞かせをいただければと思いますが、雲南市教育委員会は、

委 員：8月27日です。

事務局：27日でございますね。

委 員：今月も27日ですね。早い方がいいですか。出雲市が8月25日という事なら、それまでなら。

事務局：下の方に書いておりおりますけれども採択理由書を29日までで作らせていただくかと今考えておまして、今月には間に合いませんので、8月でお願いできればと思います。

委 員：はい、分かりました。

事務局：奥出雲町さんは、こちらの方でまた確認させていただきます。
飯南町教育委員会さん。

委 員：同じく8月27日です。

事務局：8月の27日でございますね。

委員：7月30日もありますので、そこで少し見てもらおうかと思います。

事務局：ありがとうございました。

それでは次にその他の日程のところでございますが、当初お話ししておりましたように本日のところで、教科書がすべて採択されなかった場合、第3回ということで8月6日に予定しておりましたけれども、本日、すべて決定していただきましたので、8月6日の第3回は開催をいたしません。本日の結果を受けまして、丸の2のところでございます。今後の採択の理由書ですとか、本日の協議会の議事録等の作成のスケジュールでございますけれども、まず採択理由書、先ほどもお話をさせていただきましたように、事務局の方で、7月29日までのところで作成をいたしまして、これにつきましては各教育委員会宛に、データの方を送らせていただきたいと思います。その内容につきまして、それぞれ教育長の皆様方にご確認をいただきまして、修正点等ございましたら、事務局の方へご連絡いただきたいと思います。また、平行いたしまして、本日の議事録の方を作成をして参ります。採択の理由書の修正後のもの、それから議事録を作ったものを、8月7日のところで、各委員の皆様方にお送りをする予定にしております。これにつきましてはそれぞれ、最終のご確認をいただきまして、先ほどの教育委員会での承認の結果を受けまして、9月1日のところで、採択結果、選定に必要な資料、会議録等を各委員さんに送付いたしますとともに、続いて(2)のところでございますけれども、採択結果公表ということになります。これにつきましては、出雲市役所の中にあります、記者クラブに情報提供いたしますとともに、出雲市のホームページの方にも、掲載をして参ります。公表日時は9月1日火曜日の10時としております。それぞれ報道機関に対しましては、紙媒体により提供いたしますし、ホームページにはデータの方を載せてまいります。公開する内容につきましても、これまでもお話をさせていただいておりますように、この協議会の委員の皆様のお名前、それから採択結果と、その採択の理由、それから、採択にあたっての採択の観点、それから協議会の会議録と研究調査資料であります選定に必要な資料となります。この他、請求に応じて公開をするものにつきましては、本協議会の規約、予算、決算、それから研究調査員の人数というところにつきましては、請求に応じて公表をして参ります。これにつきましては、事務局の方にて対応いたします。それから、公表しないものとしたしましては、研究調査員の所属、職、氏名、これにつきましては非公表ということでございます。採択結果の公表につきましては、補足ですけれども、令和3年度の教科書の需要数調査が、それぞれ行われますけれども、これにつきましては、だいたい8月20日ごろが報告の締め切りになるかと思っておりますので、あくまでも公表は9月1日ということになっておりますけれども、そこら辺りは、各教育委員会の内部で情報提供をさせていただいてと思います。よろしく願いいたします。事務局からは以上でございます。

課長：先ほどの説明のところでご質問等がございますでしょうか。全体を通してでも構いません。ないようでしたら、以上をもちまして、第2回、出雲採択地区教科用図書採択協議会を終わります。長時間にわたりまして、熱心にご協議いただきましたこと、誠にありがとうございました。